●國道ノ等級ヲ廢シ幅員ヲ定ム　明治十八年一月布達第一號

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四間以上並木敷濕拔敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狹小ナラサルモノト但國道線路ハ內務卿ヨリ告示スヘシ

●第二十六類

○道路、橋梁

●道路分類等級改定ノ件　明治九年六月（太政官）達第六十號

府　縣

明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管內限詳細取調內務省ヘ可伺出此旨相達候事、

但費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得ヘシ

國道

縣道

一等　各縣ヲ接續シ及各鎭臺ヨリ及各分營ニ達スルモノ

二等　各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ

三等　著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ海港等ニ達スルモノ

里道

一等　彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ

二等　用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ

三等　神社佛閣及田畑耕耘ノ爲ニ設クルモノ

右ノ内一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從フ國道並縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ各地各殊ナルモノナレハ今遽ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖トモ豫メ一般ノ法則ナキ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定ヲ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ路道ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ

國道

縣道　道幅四間乃至五間

里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要セス

橋梁ハ即チ路線ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フヲ至當トス然レトモ其幅ノ如キハ必スシモ道幅ニ隨フヲ要セス

●水道條例

明治二十三年二月
法律第九號

朕水道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水道條例

第一條　水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水地、濾水場、喞水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條　水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス

第三條　市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一　水道事務所ノ所在地

第二　水源ノ位置（河川池湖又ハ堀井ノ別其周圍ノ概況及其水量ノ概算但圖面及水質ノ分析表ヲ添フヘシ）

第三　水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、喞水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

第四　給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五　人口增殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量增加ノ見込

第六　水壓ノ概算

第七　工事方法

第八　起工竝竣工期限

第九　工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算
第十　水料ノ等級價格水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算
第四條　內務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀ヲ與フヘシ
第五條　水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス
第六條　官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ
第七條　水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該官廳ノ許可ヲ受クヘシ
第八條　地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ檢査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良水量不足ナリト認ムルトキハ地方衛生會ノ議定ヲ經相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ
第九條　市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ屆出監査ヲ受クヘシ
第十條　水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ檢査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得
第十一條　家屋內ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接續スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス

第十二條　市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ內ニ於テ家屋內ノ給水用具ヲ檢査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帶スヘシ
第十三條　市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋內ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ
家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徵收スルコトヲ得
第十四條　家主ハ家屋內給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ屆出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ檢査スヘシ
第十五條　市町村ハ一家專用ノ給水用具ヲ設クル能ハサルモノヽ爲メニ共用給水器ヲ設クヘシ
第十六條　市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徵收スヘカラス

●水利組合條例

明治二十三年六月　法律第四十六號

朕水利組合條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

水利組合條例

第一章　總則

第一條　府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區域ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖二市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若クハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條　水利組合ハ分テ左ノ二種トス

一　普通水利組合

二　水害豫防組合

第三條　普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條　水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫沙防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノヽ爲設置スルモノトス

第五條　水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條　二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ內務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章　組合ノ設置及廢止

第七條　普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條　普通水利組合ニ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一　組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ情願アリタルトキ

二　組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條　前條ノ情願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條　第八條ノ情願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ內一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條　創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半數ニ依ル

第十二條　創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知

事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨竝其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

第十三條　普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條　水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域內ニ土地家屋ヲ所有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條　水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域內ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモノトス

第十六條　府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條　府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ內一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會議ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條　水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ依ル

第三章　水利組合ノ會議

第十九條　水利組合ニ組合會ヲ置ク

第二十條　組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選擧スヘシ議員ノ數、資格、任期及選擧ノ方法ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條　組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二　組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三　組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四　組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受、並質入、書入ヲ爲ス事

五　豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

第二十二條　組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條　議員選擧ノ効力若クハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ渉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

組合ノ區域二府縣以上ニ渉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第二十四條　組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條　組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ

招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遲クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條　組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

第二十七條　組合會ノ議決ハ過半數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十八條　組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ充ルコトヲ得

第四章　組合ノ管理

第二十九條　水利組合ハ其組合ノ區域一市町村内ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理シ數市町村又ハ郡市數郡ニ渉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘシ

第三十條　水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏

ナシテ兼掌セシメ市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ

組合區域數市町村ニ渉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ

第三十一條　管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用亦同シ

第三十二條　管理者職務ノ概目左ノ如シ

一　組合一切ノ事務ヲ管理スル事

二　組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘシ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若クハ數郡ニ渉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三　組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財產ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　諸證書及其他書類ヲ保管スル事

五　外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

第三十三條　管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約書ヲ結ヒ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三十四條　組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ傭員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ傭員ハ管理者之ヲ任用ス

委員又ハ傭員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章　組合ノ會計

第三十五條　普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ

對シテハ土地ニ限リ之ヲ賦課スヘシ

第三十六條　組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年据置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十七條　組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條　組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ限リ其區域內ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得

夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條　普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設クルコトヲ得

第四十條　組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

第四十一條　組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若クハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得

組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ

定率ヲ定ムヘシ

年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第四十二條　管理者ハ每會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

第四十三條　歲入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第四十四條　決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以內ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章　水利組合ノ監督

第四十五條　水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ內務大臣之ヲ監督スヘシ其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ內務大臣之ヲ監督ス

第四十六條　此法律中別段ノ規定アルモノヽ外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコ

トヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ渉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合ノ區域二府縣以上ニ渉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條　賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徴收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若クハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

第四十八條　水利組合會ハ内務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選擧スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條　監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之カ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ竝實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スル

コトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其費ヲ追徴スルコトヲ得

第五十條　組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限竝利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ增加スルコトヲ得

第五十一條　水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ノ府縣參事會若クハ郡參事會ニ付シ代テ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選擧セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條　水利組合關係者總會ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條　監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域内ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防禦ニ從事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條　水利組合管理者及其事務ニ服從スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第百二十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第百二十九條ヲ適用ス

第七章　附則

第五十五條　府縣參事會郡參事會、及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第五十六條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至迄ノ間管理者ニ於テ行フヘシ

第五十七條　此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

第五十八條　此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之ヲ施行ス

●軌道條例

明治二十三年八月
法律第七十一號

朕軌道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軌道條例

第一條　一般運輸交通ノ便ニ供スル馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道ハ起業者ニ於テ内務大臣ノ特許ヲ受ケ之ヲ公共道路上ニ布設スルコトヲ得

第二條　馬車鐵道及其他之ニ準スヘキ軌道布設ノ爲起業者ノ負擔ヲ以テ在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シ若シハ新ニ軌道敷ヲ設クルノ必要アルトキハ之ニ要スル土地ハ起業者ニ於テ土地收用法ノ規定ニ依リ內閣認定ヲ經テ之ヲ收用スルヿヲ得

第三條　在來ノ道路ヲ取擴メ又ハ更正シタル部分及新設シタル軌道敷ハ俱ニ道路敷ニ編入ス

●自費ヲ以テ水行ヲ疏シ道路ヲ開キ橋梁ヲ架設シ運輸ノ便利ヲ興シタル者稅金取立方ヲ許ス

明治四年十二月布告無號

治水修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物產蕃殖庶民般富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者其自費或ハ會社ヲ結ヒ水行ヲ疏シ嶮路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上工費ノ多寡ニ應シ年限ヲ定メ稅金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其地ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ入費稅金ノ制限等篤ト取調大藏省ヘ可申出事

但本文ノ趣管內無洩可相達事

●道路敷地貸渡ヲ禁ス

明治八年十二月內務省達乙第百六十五號

從來ノ因襲ヲ以テ是迄道路ノ敷地ヲ貸渡住居差許置候分モ有之候處自今往來障害ノ有無ニ拘ハラス新タニ貸渡候義難相成候條爲心得此旨相達候事

●道路河川變換ニ付民有地ヲ新道新川敷ト爲ストキ舊道舊河敷ヲ代地トシ下渡サシム

明治九年六月內務省達乙第八十一號府縣

一般便益ノ爲メ道路河川ヲ變換スルニ際シ民費ヲ以テ民有地ヲ新道新川敷ト爲シ舊道舊河敷不用ニ屬シ土功著手者其地ヲ請求スル者ハ右舊道舊河敷ハ新道新川敷ノ代地トシテ悉皆無代價ニテ可下渡此旨相達候事

但官林內ニ在ル舊道舊川敷地ハ此限ニアラス

●橋梁渡船賃額掲示及受取方

明治八年七月內務省達甲第十六號

諸道橋梁渡船賃ノ儀各種ノ賃額川場ハ勿論賃錢受取方ニ付テハ時間ヲ費ス者行人ノ迷惑不相成樣厚ク注意可爲致此旨布達候事

●渡船ハ一人タリトモ出船セシムルノ件

明治六年五月大藏省達第七十五號

（明治十六年內務省乙第四十五號ヲ以テ但書ヲ追加セラル）

諸通川々渡船場ノ儀ハ至當ノ賃錢ヲ請取越立候儀ニ付譬一人タリ共速ニ可越立ハ當然ニ候處多人數ニナヨヒ候迄行旅ヲ留置候弊習有之趣相聞以ノ外ノ儀ニ付以來一人タリ共早々出船候樣川場ヘ掲示可致置候事

●道路橋梁渡津ニ於テ警部並ニ巡査區内巡行ノ節賃錢請求禁止

明治九年三月　内務省達甲第四號

道路橋梁渡津ニテ公私ノ別無ク賃錢請求ノ儀許可致置候場所モ有之候處自今警部並巡査持區内巡視之節制服着用ノ者ニ限リ賃錢請求不相成候條此旨布達候事

●人民私費架設ノ橋梁渡津又ハ新道軍隊行進ノ節賃錢請求方ヲ禁ス

明治十三年四月　内務省達乙第十七號

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津又ハ新道自今軍隊隊伍ヲ組ミ行進ノ節ハ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船願人共ヘ無漏可相達候事

●人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ節賃錢請求方ヲ禁ス

明治十四年十二月　内務省達乙第六十二號

（明治十三年内務省乙第三十三號達ヲ以テ渡津ノ下又ハ新道ノ四字ヲ加フ）

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及其私費開鑿ノ道路等憲兵巡行之節ハ單騎獨歩ト雖モ制服著用之節ニ限リ其賃錢請求不相成候條兼テ許可有之架橋渡船及開路願人共ヘ無漏可相達候事

●人民私費架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫印鑑所持ノ者賃錢請求方ヲ禁ス

明治十六年六月　内務省達乙第卅一號

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及私費開鑿ノ道路等郵便脚夫ノ飛信遞送並郵便物遞送集配（特ニ配達ヲ証スルノ時ニ限リ賃錢請求不相成旨客年三月當省乙第十八號ヲ服ヲ著シ配達スルトキ）以テ相達置候處自今郵便局ヨリ左ノ如キ印鑑相達置候條右所持ノ者ハ制服ノ著否ニ拘ハラス賃錢請求不相成儀ト可心得此旨免許人共ヘ遺漏ナク達シ置ヘシ

府　縣

此印ハ各郵便局ヨリ各郵便局ヘ渡シアル局印

第　號	何國何地郵便局
何之誰	脚夫

二寸五分

明治十六年月日　○

●人民私設ニ係ル橋梁渡津及道路等ニ於テ印鑑携帶ノ電報配達人ニ賃錢請求スルヲ得ス

明治二十一年十二月
内務省訓令第二十七號

北海道廳　府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ著シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治十五年乙第六十六號ヲ以テ相達候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ著否ニ拘ハラス賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ

印鑑雛形

二寸五分

第　號
何國
何地郵便電信(電信)局集配人
何ノ誰

○明治　年　月　日

何國
何地
郵便電信局

●道路開設電信線路變換及費用支辨ノ件

明治十七年四月
達第四號(工部省)

府縣

道路開設修繕等ノ爲メ電信ノ線路ヲ變換シ又ハ電信柱ヲ移轉センコトヲ請求スル時ハ其向ニ於テ實況ヲ調査シ不得止ニ出ルモノハ多少ヲ論セス轉換可取計候得共其費用ハ都テ請求者ニ於テ支辨可致義ト可相心得此旨豫メ相達置候事

但家屋構造又ハ店頭商業ノ支障等ニテ電信柱ノ移轉ヲ請求スル分ハ此限ニアラス

●陸運ニ係ル統計徵集ニ付材料差出方

明治十八年三月
農商務省達第六號

府縣

陸運ニ係ル統計徵集候條明治十八年已降毎年取調翌年三月三十一日限可差出此旨相達候事

但材料樣式ハ驛遞局ヨリ通牒スヘシ

陸運統計材料樣式

陸運統計材料凡例

一第一第二第三第四第五表及第九表ハ明治十八年十二月三十一日ノ現在ヲ取調ヘ其

以後ハ一箇年中ニ增減變動シタル事項ノミヲ取調ヘ毎年之ヲ報告スヘシ

一第六及第八表ハ十二月三十一日ノ現在ヲ取調ヘ第七表ハ一箇年中ノ總數ヲ取調ヘ明治十八年分ヨリ毎年之ヲ報告スヘシ

一報告ノ期限ハ總テ翌年三月三十一日迄トス

一隧道橋梁渡津ハ第一表ニ掲クル驛路ニ在ルモノヲ取調フヘシ

一里程間數等ヲ記スルハ里位ニ(里)町位ニ(町)間位ニ(間)ヲ施スヘシ

一金員ヲ記スルハ厘位ニ止メ圓位ニ(●)ヲ施スヘシ

一表中ニ記入スヘキ員數ナキトキハ(ー)ヲ以テ其欄ヲ塡ムヘシ

一表中記入ノ事項ニシテ其注明ヲ要スルモノハ(◎)ノ符印ヲ施シ其事由ヲ表末ノ欄外ニ詳記スヘシ

樣式

第一　驛路里程

△印ハ朱書

道名	國縣ノ別	里道	驛名	驛間ノ里程	道幅	車輪通否
△何街道	△何	驛	△若干	〃	△通	否
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

驛路ノ他府縣下ト聯接シテ其境界ニ驛アラサルモノハイ印ノ如ク他府縣下ノ驛名ヲ掲クヘシ

里程ノ未實測ヲ經サルモノハ從來ノ取調ヲ記シ其肩◎ニ印ヲ施スヘシ

第二　驛ノ所在

國名	郡名	驛名	戸數	府縣廳ヘノ距離
△何國	△何郡	△何驛		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		
〃	〃	〃		

第三　隧道

隧道名	驛名	開鑿年月	道幅	間數	通行錢有無
△何隧道	△何驛	△何年何月			△有
〃	〃	〃			
〃	イ何驛ノ間	〃			
〃	〃	〃			無
〃	ロ何府何縣何驛ノ間	〃			

隧道前後ノ驛並ニ本管下ニ在ルモノハイ印ノ如ク記シ其一方他府縣下ニ屬スル者ハロ印ノ如ク記スヘシ第四第五表亦仝シ

隧道ニシテ車馬ノ通セサル者ニハ◎印ヲ附シ車馬通セスト記スルヲ要ス

第四　橋梁

橋名	川名	驛名	架設年月	橋質	橋幅	間數	橋錢有無

間數十間未滿ニシテ橋錢ナキモノハ取調ニ及ハス

架設年月トハ現在ノ橋梁ヲ新架シ又ハ架換ヘタル年月ヲ云フ

橋質トハ土木鐵石等ノ別ヲ云フ

第五　渡津

渡津名						
驛名	川名	川幅	水幅	渡船數	渡賃有無	

第六　陸運營業者及用具

何年十二月三十一日調

驛名	營業	稼業	人力車	荷車	乘合馬車	荷馬車	馬車用馬	荷牛車	牛車用	駄馬	駄牛	乘馬	駕籠	橋
	戸	人	輛	輛	輛	輛	頭	輛	頭	頭	頭	頭	挺	挺

營業者トハ人足牛馬車等ヲ備ヘテ運送荷物及旅客ノ用ニ供スル會社問屋ノ類ヲ云ヒ稼業人トハ人足渡守輓夫馭者馬丁牛馬口取駕籠昇等ノ如キモノヲ云フ

第七　荷物量數及運賃

何年調

驛名	發	繼立	到著
	荷物運賃	荷物運賃	荷物
	貫	貫	貫
	個	個	個

發著トハ荷物ノ其驛ヨリ新ニ差立ルモノト其驛ニ到著セシモノトヲ云ヒ繼立トハ其驛ヲ經過シタルモノヲ云フ

荷物ノ量數ハ貫目ヲ以テ計算シ實際貫目ヲ用ヒサルモノニ限リ個數ヲ以テス

第八　各驛運賃定額

何年十二月三十一日調

驛名	荷物	人足	人力車	荷車	乘合馬車	荷馬車	荷牛車	駄馬	駄牛	乘馬	駕籠	橇
△何驛ヘ何驛ヘ												
〃何驛ヘ												
〃何驛ヘ												
〃何驛ヘ												

荷物ハ五貫目ノ運賃ヲ取調フヘシ

乘合馬車ハ莅名ノ賃錢ヲ記スヘシ

第九　隧道橋梁渡津通行錢定額

類別	名稱	徒歩一人	牛馬一疋	何々	何々			
隧道	△何〃隧道							
〃	〃							
橋梁	△何〃橋							
〃	〃							
渡津	△何〃渡							
〃	〃							

●陸運統計材料樣式改正

明治十九年三月　遞信省令第二號

北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十八年農商務省第六號達陸運統計材料樣式別冊之通改正ス

但別冊ハ當省總務局記錄課ヨリ送付ス（別冊略ス）

●國縣道新設又ハ變換ノトキ築造保存方法取調標準

明治十九年八月　內務省訓令第十三號

北海道廳　府縣（沖繩縣ヲ除ク）

國縣道ノ新設又ハ變換ニ係ルモノハ自今左ニ揭ル所ノ標準ニ從ヒ其築造保存方法等取調差出ス可シ

但在來ノ道路ト雖モ可成此標準ニ據リ漸次改良ヲ加フル儀ト心得ヘシ

第一章　築造計畫

第一條　國道縣道ヲ新築若クハ改築スルトキハ左ノ圖面及書類ヲ調製ス可シ

一　實測平面圖　縮尺六千分一

二　實測縱斷面圖　縮尺長六千分一　同高二百分一

三　實測横斷面圖　縮尺適宜
四　橋梁隧道暗渠等ノ圖　縮尺適宜
五　堀割及盛土土坪計算書
六　一位代價表
七　工費計算書
八　計畫説明書

第二條　實測平面圖ニハ國界、郡界、村界、地名、字、宿驛、市街、村落、人家、山脈、丘陵、水流、沼澤、森林、原野、荒蕪地、耕地、橋梁、堤塘等其外地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノハ之ヲ詳記スヘシ又高六尺毎ニ計畫路線近傍地ノ高低線ヲ記入シ計畫路線ハ赤線ヲ以テ記シ其丁杭幷直線ノ長及方向、曲線ノ長及半徑等ヲ詳記スヘシ

第三條　實測縱斷面圖ニハ計畫路線中心地面ノ高低計畫路線ノ高低、計畫路線ノ丁杭及水平距離、各高低線間ノ水平距離、計畫路線ノ勾配、堀割及盛土部分ノ高低及長、水平路線及阪路ノ水平距離、隧道及橋梁ノ長及高、其他國郡、村界、市街、村落、地名、字、水流、溝渠等都テ參照ニ必要ナルモノヲ詳記スヘシ

第四條　實測横斷面圖ハ計畫路線長三丁毎ニ之ヲ製シ其他高低甚シキ箇所ハ其横斷面圖ヲ製シ土坪計算ノ用ニ供スヘシ

第五條　橋梁ハ平面圖（橋梁前後河川ノ景狀ヲ記スヘシ）側面圖其他構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面及橋梁ヲ架設スヘキ箇所ノ河川横斷面圖ヲ調製スヘシ

第六條　隧道暗渠溝渠等ハ其構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面ヲ調製スヘシ

第七條　堀割及盛土土坪計算書ニハ横斷面ノ番號、幅、高、平積、距離、立積、ヲ記シ之ヲ表ニ製シ其計算法ヲ明瞭ニスヘシ

第八條　一位代價表ハ堀割、盛土、溝渠、石垣等其他各種其各其一位トナスヘキモノ（假令ハ堀割盛土ハ立積一坪ヲ一位トナシ野面石垣ハ平積一坪ヲ一位トナスノ類）ヲ選ミ其一位ニ付テ必要ナル築品人夫等ノ員數及代價賃金ヲ算シ一位ノ代價ヲ記スヘシ

第九條　工費計算書ニハ各種工事其各部分毎ニ其一位ヲ以テ算出シタル總數ニ一位ノ代價ヲ乘シ其計ヲ記スヘシ但橋梁、隧道、暗渠、其他諸雜費ハ別ニ部分ケヲ爲シテ其工費ノ計算内譯ヲ記スヘシ

第十條　計畫説明書ニハ新道開設若クハ路線變更ノ必要アル理由、路線撰定ニ付テ地形、氣候、土質等ヲ酌量シタル理由幷築造費及保存費ノ多寡運搬ノ便否ヲ比較シタル説明其他橋梁隧道等ニ付テ其構造ノ説明及强力ノ計算幷其構造法選定ノ理由等ヲ詳記シ及橋梁、溝渠、暗渠等ノ計算ニハ水流最高水ノ面積及流量ヲ記スヘシ

第二章　路面ノ築造

第十一條　道路ノ表面ハ割石ヲ以テ築造スヘシ其馬車ノ通行頻繁ナラス搭載荷物重量ナラサル者ハ砂利ヲ以テ築造スルヲ得但其築造法ハ概ヲ割石道路ト同一タルヘシ

第十二條　割石ノ厚ハ道路ノ中央ニ於テ五寸以上トナシ夫ヨリ兩端ニ向ヒ漸次減却三寸以上ト爲スヘシ

第十三條　横斷路面ノ形狀ハ楕圓形トス其勾配ハ平均三十分一トスヘシ

第十四條　下水ノ深サト其底敷ノ幅トハ各一尺五寸ヲ下ルヘカラス

第十五條　車道中央ノ高サハ下水ノ最高水面ヨリ一尺以上タルヘシ

第十六條　割石敷設ノ方法ハ先ツローラル或ハ蛸木ニテ地盤ヲ堅ムルノ後割石一層ヲ敷キ其上ニ割石ト能ク密着スヘキ石屑又ハ砂利ヲ散布シ之ヲ堅メ然ル後再ヒ割石ヲ敷キ前同樣ノ石屑若クハ砂利ヲ其上ニ散布シテ更ラニローラル或ハ蛸木ニテ堅メ法式ノ如ク仕上ルモノトス

第十七條　割石ハ能ク寒ニ堪ヘ且硬キモノニシテ混合物ナク多角ナルモノヲ撰用スヘシ

第十八條　割石ノ寸法ハ凡ソ一寸五分ヨリ大ナラサルヘク八分ヨリ小ナラサルヘシ

第十九條　散布スヘキ石屑若クハ砂利ノ割合ハ割石立積ノ三十分一ヨリ多カラサルヘシ

第二十條　割石敷設ノ後ハ密着固結ニ至ル迄間斷ナク修治ヲ加フヘシ

第三章　勾配及屈曲

第二十一條　道路ノ勾配ハ成ル可ク左ノ割合ヲ超ヘサラシムヘシ

第一項　國道　勾配三十分一　即長延壹間ニ付二寸四分

第二項　縣道　勾配二十五分一　即長延壹間ニ付二寸四分

第二十二條　曲線ノ半徑ハ己ムヲ得スシテ減縮スル場合ト雖モ路線中心ノ半徑六間ヲ下ル可カラス

第二十三條　曲線ノ半徑拾間以下ノ者ト阪路ノ勾配四十分一以上ノ者トヲ同所ニ兩存セシムヘカラス

第二十四條　曲線ノ半徑二十間以下ノ者ヲ背向直接セシメス必ス兩曲線ノ間ニ一ノ直線ヲ置クヘシ

第四章　堀割及盛土

第二十五條　堀割若クハ盛土ノ傾斜面ハ植草柵工若クハ野面石垣等ヲ設ケテ之カ破損豫防ヲ爲スヘシ

第二十六條　堀割傾斜面ノ勾配ハ其質地ニ從テ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第二十七條　盛土傾斜面ノ勾配ハ一割二分ヨリ下ルヘカラス

第二十八條　堀割及盛土ノ傾斜面ニ勾配ノ減少ヲ要スルカ若クハ其地質善良ナラサルトキハ基礎石垣ヲ築造スヘシ

第五章　橋梁暗渠及隧道

第二十九條　橋梁ノ構造ハ橋面平積壹坪ニ付四百貫目ノ重量ヲ橋上滿面ニ積載シ得ルモノトナスヘシ

第三十條　長五間以下ノ橋梁ハ其幅ヲ(欄干ノ中心ヨリ中心ニ至ル)道路ノ幅員ト同一ニスヘシ長五間以上ノ橋梁ハ其幅ヲ(左右欄干內法)三間以上トナスヘシ

第三十一條　道路ヲ横斷スル小流ニシテ架橋ヲ要セサル者ハ必ス暗渠ヲ設テ之ヲ通スヘシ

第三十二條　隧道ノ幅員ハ濕拔ヲ除キ幅三間以上タルヘシ

第三十三條　隧道內ノ路線ハ必ス適宜ノ勾配ヲ與ヘ下水ノ流通ヲ充分ナラシムヘシ

第三十四條　隧道內ノ高サハ路面ヨリ十五尺以上タルヘシ

第三十五條　隧道暗黑ニシテ危險ナル者ハ必ス返照燈ヲ點スヘシ

第六章　並木

第三十六條　並木ハ地方ノ形狀ニ依リ主トシテ雪ヲ防キ日光ヲ覆ヒ若クハ風ヲ防クノ目的ヲ以テ植付クヘシ其種類ハ成長速カニシテ且行人若クハ道路ニ障害ナキ者ヲ撰用スヘシ

第三十七條　並木線ハ必ス路線ニ並行ナラシムヘシ

第三十八條　並木ハ下水ノ上緣ヨリ二尺以上ノ距離ニ於テ植付ヘシ

第七章　保存及修繕

第三十九條　道路ハ平生注意シテ破損ヲ豫防シ若シ小破アルトキハ速ニ修繕ヲ加ヘ大破ニ至ラサラシムヘシ

第四十條　割石道路ノ破損ハ路面ノ泥濘及ヒ粉細ノ土砂ヨリ生スルカ故ニ道路ヲ保存スルニハ主トシテ之ヲ掃除スヘシ

第四十一條　路面ニ少シク凹所ヲ生シタルトキハ直チニ其凹所アル部分ヲ少シク堀起シ然ル後割石ト石屑若クハ軟質ナル砂利トヲ適宜ニ散布シローラル或ハ蛸木ヲ以テ之ヲ堅メ且其修繕ノ部分ト修繕ヲ加ヘサル部分トノ結合シ易キヲ務ムヘシ

第四十二條　前條ノ修繕ハ一方ヨリ順次ニ著手セスシテ必ス凹所ノ最モ甚シキ部分ヨリ先ニスヘシ

第四十三條　路面ノ一方ニ修繕ヲ加フルトキハ馬車ハ好テ他ノ一方ヲ通行スヘキカ

故ニ之レカ爲メ其一方ノ破損ヲ來スノ患アリ又一時ニ路面ノ全幅ヲ修繕スルトキハ通行ノ馬車多クハ同轍ニ由ルヘキカ故ニ其修繕シタル部分ノ未タ固結セサル前ニ於テ破損ヲ生スルノ患アリ故ニ一時ニ廣キ面積ノ修繕ニ著手スヘカラス且馬車ノ通行偏倚セサル樣修繕スヘキ箇所ヲ區分スヘシ

第四十四條　修繕ハ路面ノ濕氣ヲ含ミタル時ニ於テ施工シ若シ降雨ナキトキハ適宜水ヲ注テ施工スヘシ

第四十五條　保存及修繕ヲシテ完全ナラシムルニハ第一管守人ヲ置キ平素技術者ノ指揮ヲ受ケ之レカ保存ニ從事セシム可シ第二保存及修繕ニ使用スヘキ器具築品人夫等ヲ常ニ各所ニ配置シ使用ニ便ナラシムヘシ

第四十六條　砂利道路修繕ノ方法ハ概ヲ割石道路ト異ナルヿナシ但其保存ニハ一層注意ヲ加フヘシ

●官有ノ川敷溝敷寄洲川沿地等ノ拂下ヲ禁シ貸下ヲ制裁ス

明治十八年十二月
内務省達甲第三十六號

府縣

官有ノ川敷溝敷寄洲沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ヲ爲スコトヲ許サス從前既ニ貸下ケタルモノハ當期ヲ限リ返地セシムヘシ但物揚場等公益上ニ使用スルモノ及熟田畑ハ貸下クルコトヲ得ルト雖トモ治水ニ妨害アル構造ヲ爲シ又ハ樹竹ヲ栽培セシム可ラサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

●官ニ屬スル公有水面埋立ノ出願免許方

明治二十三年十月
内務省訓令第三十六號

北海道廳　府縣

第一條　官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テンコトヲ出願スル者アルトキハ關係市町村會ノ意見ヲ聞キ然後技術者ヲシテ調査セシメ第二條以下ニ規定シタル命令書ヲ下付シテ之ヲ免許ス可シ

第二條　公有水面埋立ノ命令書ニハ左ノ條項ヲ記載ス可シ

一　出願人ノ住所姓名
一　埋立ノ位置並區域
一　埋立ノ目的
一　埋立ノ方法
一　著手ノ期限

一　成功ノ期限

一　既ニ免許ヲ與ヘタル後ト雖トモ其成功ノ認可ヲ與フルマテノ間ハ公害ヲ生シ若クハ之ヲ發見スルトキハ地方長官ハ何時ニテモ無償ニテ命令書ノ條項ヲ改メ得ルコト

一　著手ノ期限ニ至テ著手セス成功ノ期限ニ至テ成功セス其他命令ノ條項ニ從ハサルモノハ免許ノ効ヲ失ヒ且障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントスルコトアラハ出願人ノ費用ヲ以テ之テ除カシメ又ハ豫防セシムルコト

一　免許權ハ官許ヲ受クルニ非サレハ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得サルコト

一　天災事變ノ爲メニ期限内ニ著手若クハ成功シ難キ事情アルモノハ其事由ノ止ミタル後二箇月内ニ出願スルニ於テハ相當ノ延期ヲ與フルコト

第三條　通船ノ便利用惡水ノ疏通ヲ保護スル等埋立ノ他位ト季節トニヨリテ公益上制限ヲ加フルノ必要アルモノハ精細ニ其仕樣ヲ命令書中ニ記載スヘシ

第四條　埋立成功ノ後其他所ノ道路溝渠物揚場等公共ノ用ニ供スヘキ分ハ無償ニテ官有トナスヘシ其他ハ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

前項官有ニ歸スヘキ地區ト出願人ノ所有トスヘキ地區トハ豫メ命令書並ニ圖面ニ明記スヘシ

第五條　大土工ニハ埋立方法書ノ外精密ナル設計書ト圖面ヲ選ラシメ之ヲ命令書ニ附屬スヘシ本條ノ場合ニ於テハ埋立ノ區域ヲ數區ニ分チ著手及成功ノ期限ヲ異ニシ殘工事ノ成功ニ妨ケナシ且公益ニ害ナキ限リハ其成功スル毎ニ出願人ノ所有ニ定ムルコトヲ得

第六條　公有水面ヲ變シテ出願人ノ所有トナシタル後公害アルコトヲ發見スルトキハ時價ヲ以テ買收スルカ又ハ收用スルニ非サレハ回復スルコトヲ得ス

第七條　舊慣ニヨリテ捕魚採藻ノ業ヲ營ムノ外公有ノ水面ヲ其儘使用セシコトヲ出願スルモノアルトキハ前條々ノ例ニ準シ命令書ヲ下付シテ之ヲ免許スヘシ但本條ノ場合ニ於テハ相當ノ料金ヲ國庫ニ納メシムヘシ

第八條　官ニ屬スル私有水面ノ埋立ハ第一條ノ手續ヲナシタル後一般ノ官有地賣貸ニ關スル規則ニ隨ヒ其地ヲ賣却又ハ貸與シテ之ヲ埋立シムヘシ其使用ハ一般貸地ノ手續ニ依ルヘシ

第九條　水上ノ取締ニ關スル規則ニヨリテ公有水面ノ使用ヲ許スノ類ハ命令書ヲ下付スルニ及ハス又使用料ヲ納メシムルニ及ハス公共ノ障碍ナキニ於テハ無料使用ヲ許スコトヲ得

第十條　何レノ場合ニ於テモ使用料額ハ五箇年ヲ期シテ定ム可シ

第十一條　凡ソ一箇所ノ場所ヲ二人以上同時ニ埋立又ハ使用セントコトヲ出願スル者アルトキハ共ニ內務大臣ニ稟議シテ其指令ヲ乞フ可シ

第十二條　公有水面ノ埋立ハ公益上必要アルモノ並特別ノ理由アルモノヽ外五箇年內ニ成功シ難キ廣キ場所ヲ一手ニ免許スルコトヲ得ス

第十三條　公有水面ノ埋立使用ハ從來特ニ委任セシモノ及第九條ヲ除クノ外總テ意見ヲ具シ地圖ヲ添ヘ本大臣ニ稟議シテ後處分スヘシ其本大臣ノ指令ヲ得テ下付シタル命令書、許設書、圖面ハ亦本大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ變更スルコトヲ得ス

◎第二十七類

○鐵道

●鐵道畧則　明治五年五月　布告第百四十六號

第六十一號布告鐵道畧則別紙ノ通改正候條此旨相達候事

但開局日限ノ儀ハ治定ノ上追テ可相達候事

（別紙）

鐵道略則

第一條　賃金之事

何人ニ不限鐵道ノ列車ニテ旅行セント欲スル者ハ先賃金ヲ拂ヒ手形ヲ受取ルヘシ然ラサレハ決シテ列車ニ乘ル可カス

第二條　手形檢査及渡方ノ事

手形檢査ノ節ハ改ヲ受ケ取集ノ節ハ渡スヘシ若シ檢査ノ節手形ヲ出サス或ハ取集ノ節手形ヲ渡サヽル者ハ更ニ最初發車ノ「ステーション」（「ステーション」トハ列車ノ立場下ロシヲ爲ス所ヲ云フ）ニテ旅客ノ乘リ下リ荷物ノ積ミヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ尤途中ヨリ乘來リシ者ニテ其確證判然タル時

ハ其乘リタル場所ヨリノ賃金ヲ拂ハシムヘシ

第三條　途中「ステーション」ニテ乘組幷手形ノ事

途中「ステーション」ニ於テハ列車中餘地ノ有無ニ應シテ乘組ムコトヲ得ヘシ若シ其手形ヲ買取リシ總人數ヲ容ルヘキ餘地ナキ時ハ其中ニテ最モ遠キ地ニ赴ク手形所持ノ人丈ケ先ツ乘込ムコトヲ得ヘシ若シ又同里程ノ地ニ赴ク客數人アルトキハ其手形ノ番號ノ順序ヲ以テ乘ルコトヲ得ヘシ

第四條　僞欺ノ者扱方ノ事

何人ニ不限賃金ヲ拂ハス列車ニテ旅行セント計リ或ハ遂ニ旅行シ又ハ其拂ヒシ賃金高相當ノ車ニ乘ラスシテ更ニ上等ノ車ニ乘リ組又ハ既ニ車ヨリ下ルヘキ場所ヲ過キ增賃金ヲ拂ハスシテ遠キ場所ニ至リ遂ニ其賃金ヲ免レント計リ又ハ既ニ拂ヒタル賃金ニテ到ルヘキ場所ニ至リナカラ車ヨリ下リ去ルコトヲ肯セス其外如何ナル仕方ニテモ賃金拂方ヲ逃ントスル者ハ夫々法ニ隨テ罰スヘシ

第五條　列車運轉中出入禁止ノ事

總シテ列車ノ運轉中ニ出入スルコト又ハ車內旅客ノ居ルヘキ場所ノ外ニ乘ルコトヲ禁ス

第六條　疱瘡等ノ病人ヲ禁止スル事

疱瘡及諸傳染病ヲ煩フ者ハ乘車ヲ禁ス若シ此等ノ病人車中ニ在ラハ見當リ次第鐵道掛ノ者ヨリ車外並ニ鐵道構外ヘ退去セシムヘシ

第七條　吸煙並婦人部屋男子出入禁止ノ事

何人ニ限ラス「ステーション」構內吸煙ヲ禁セシ場所並ニ吸煙ヲ禁セシ車內ニテ吸煙スルコトヲ許サス且婦人ノ爲ニ設ケアル車及部屋等ニ男子妄リニ立入ルヲ許サス若シ右等ノ禁ヲ犯シ掛ノ者ノ戒メヲ用ヒサル者ハ車外並ニ鐵道構外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第八條　醉人及不行狀人扱方ノ事

何人ニ不限總テ列車乘組中又ハ「ステーション」並ニ鐵道構內ニテ醉ニ乘シ妄狀ヲ現ハス者又ハ不良ノ行狀ヲ爲ス者ハ鐵道掛ノ者ヨリ車外及鐵道構外ヘ直ニ退去セシムヘシ

第九條　鐵道ニ屬スル物品ヲ毀損スル時ノ事

何人ニ不限浪リニ「ステーション」其他鐵道構內ニ標識揭示セル書附等ヲ剝シ或ハ破リ又ハ列車ノ番號札ヲ取除キ或ハ車燈ヲ消シ又ハ各車ノ諸器械倉庫建家牆柵其他鐵道一切ノ附屬品ヲ毀損スル者ハ都テ法ニ隨テ處置スヘシ

第十條　機關車等ヘ乘込ヲ禁スルノ事

機關方並火夫ノ外ハ其筋ノ許ヲ得スシテ機關車又ハ炭水車ニ乘リ或ハ乘ラント爲ス可ラス且車長及車掛ノ者ノ外其筋ノ許ヲ得スシテ荷物車又ハ旅客ノ爲メニ設ケサル車ニ乘リ又ハ乘ラント爲ス可ラス若此禁ヲ犯シ鐵道掛リノ者ノ制止ヲ用ヒサル者ハ直チニ其場ヨリ退去セシムヘシ

第十一條　鐵道地所ヘ妄リニ立入者取扱方ノ事

何人ニ不限「ステーション」又ハ鐵道構内ヘ妄リニ立入者ハ鐵道掛ノ者ヨリ即刻構外ヘ立去ラシムヘシ

第十二條　旅客ノ荷物紛失毀損取扱方ノ事

旅客手廻リ荷物其外所持ノ品タリトモ總テ之カ爲ニ別段ニ賃金ヲ拂ヒ其受取証書ヲ取置カサレハ若シ紛失毀損等アルトモ政府ニ於テ關係セサルヘシ又ハ賃金ヲ拂ヒ證書ヲ取置トモ其毀損紛失等ヲ償フニハ只旅客自用衣服ノミニ止リ且償金モ五拾圓ニ過ルコトナシ

第十三條　高金及大切ノ物品紛失毀損ニ關不關アル事

金銀紙貨幣郵便切手爲替會社通用券爲換手形約定證書金銀請拂證書地所建家沽券諸繪圖書書古器金銀玉石鍍金及諸彫刻細工物時計類其餘衣類或ハ玩佩物ノ裝飾ニ混作ノ品類及硝子器類陶器漆墨酒類蠶種繭絹布生熟糸等ノ品物運送方ニ付テハ其品拵並價高等ヲ明白ニ其掛ヘ申立テ增賃金ヲ拂ヒ紛失毀損等請合シ分ノ外ハ總テ政府ニ於テ之ヲ償ハス

第十四條　牛馬獸類運送ノ事

牛馬及其他ノ獸類ヲ運送スルニ其持主或ハ送リ人ヨリ其獸類ノ價ヲ運送掛ヘ申出相當ノ增賃金ヲ拂ヒ請合證書ヲ取置クヘシ若シ增賃金ヲ拂ハス請合ヲ爲サヽル分ハ如何程高價ノ獸類紛失損害アルトモ牛一匹金二十圓以上馬一疋或ハ乳牛一疋ニ金十圓以上羊或ハ豚一疋ニ付金五圓以上ヲ政府ニ於テ償フコトナシ

第十五條　砲發ヲ禁スル事

何人ニ不限車内ハ勿論鐵道線及其他構内ニテ砲發スルヲ禁ス

第十六條　爆發質アル危害物運輸ヲ禁スル事

鐵道寮ヨリ追テ公告スルマテハ火藥及ヒ「ピトローリヤム」「ケロシン、ライル」「トルペンタイ」石灰油等ヲ云硝性并ニ爆發質燃燒質等ノ物品ハ運輸セサルヘシ

第十七條　荷物目錄ヲ渡スヘキ事

運送ノ諸荷物ヲ鐵道掛ノ者ヘ引渡シ又ハ請取ノ度毎ニハ右荷主或ハ宰領人ヨリ其品拵數量及姓名ヲ記シテ掛リノ者ヘ差出ヘシ

第十八條　物品并畜類損害償方定限ノ事

鐵道ニテ運送スル物品並ニ畜類紛失損害アリトモ鐵道掛リノ怠惰疎漏ヨリ起リシニ非レハ政府ニ於テ之ヲ償フコトナシ

第十九條　荷物運送賃金ノ事

何人ニ不限荷物運賃ノ催促ヲ受テ尚拂ハサル時ハ其荷物ノ全部又ハ部分ヲ留置キ若シ又其荷物既ニ他所ニ運送セシ時ハ其後同人附屬ノ荷物鐵道掛リヘ送來ルコトアルトキハ之ヲ留置キ同人ヘ告知セラレタル上ニテ滯金高程ノ品ヲ入札公賣シ其滯金ト諸入費トヲ引取殘金殘品ヲ同人ヘ返スヘシ又時宜ニヨリ右ノ取計ヲ爲サス法官ニ訴ヘテ賃金並入費等ヲ取立ルコトモアルヘシ

第二十條　規則ニ隨ハサル者ノ事

何人ニ不限諸事前條ノ規則ニ隨ハスンハ乘車及ヒ荷物ノ運送ヲ許サヽルヘシ

第二十一條　規則等ノ變革布達ノ事

此規則中變革及加除アルトキハ遍ク告達スヘシ

第二十二條　荷物運送引請方ノ事

諸荷物ノ運送ヲ引請ルコトハ列車中餘地ノ有無ニ應スヘシ

第二十三條　此規則ヲ施行スルカ爲メニ夫々法官ニ訴ヘ犯罪人罰シ方等ノ裁判ヲ乞フ手順ハ鐵道頭或ハ鐵道支配人ノ間ニテ其取扱アルヘシ

（明治十二年第十二號布告ヲ以テ第二條改正第六條第九條第十一條禁錮ヲ禁獄ト改メラル）

第二十四條　旅客並荷物ノ運賃ハ時宜ニ隨ヒ變革アルト雖トモ其變革毎ニハ二週日前ニ告達スヘシ尤鐵道頭鐵道支配方及運輸頭取ノ間ニ於テ前條ノ如キ告達ナク臨時ニ常例ヨリ下等ノ運賃ヲ以テ別ニ列車ヲ仕立ルコトモアルヘシ

第二十五條　此規則ハ來ル五月七日ヨリ施行スヘシ

右之條々此度確定候事

（參照）

明治六年三月第百一號布告壬申第百四十七號布告鐵道犯罪罰例別紙ノ通改正相成候條此旨布告候事

（別紙）

鐵道犯罪罰例

第一條　鐵道掛ノ者總テ鐵道上ニ關カル事務取扱中醉ニ乘シ無狀ヲ現ハスニ於テハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス若シ其職掌怠惰輕忽ニヨリ鐵道旅客ノ危難トモナルヘキ取扱アルトキハ其事情ニ依リ五百圓以內ノ罰金又ハ三月以內ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第二條　規則第四條ニ記スル處ノ不法ヲ爲ス者ハ貳拾五圓以內ノ罰金或ハ三十日以內ノ禁獄ニ處ス

第三條　規則第五條ノ禁ヲ犯ス者ハ十圓以內ノ罰金ニ處ス

第四條　規則第六條ノ禁ヲ犯スモノハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第五條　規則第七條ノ禁ヲ犯ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ十圓以內ノ罰金ニ處ス

第六條　規則第八條ニ記セル所行ヲ爲ス者ハ拂タル賃金ヲ沒シ二十五圓以內ノ罰金或ハ三十日以內ノ禁獄ニ處ス

第七條　規則第九條ニ記スル所ノ不法ヲ爲ス者ハ五十圓以內ノ罰金又ハ六週間以內ノ懲役或ハ禁獄ニ處ス

第八條　規則第十條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第九條　規則第十一條ノ禁ヲ犯ス者ハ貳拾五圓以內ノ罰金或ハ三拾日以內ノ禁獄ニ處ス

第十條　規則第十五條ノ禁ヲ犯ス者ハ二十五圓以內ノ罰金ニ處ス

第十一條　規則第十七條ニ記スル處ノ諸荷物品書其外ヲ故ラニ出サス或ハ故ラニ欺僞ノ品物書ヲ出ス者ハ三箇月以內ノ懲役又ハ禁獄或ハ其品物壹噸（千七百斤ヲ云）每ニ貳拾五圓以內ノ罰金ニ處ス壹噸以下ハ拾圓以內尤一罰ノ賠金高五百圓ニ過キス

第十二條　鐵道附屬品ヲ毀損スル者ハ第七條ニ照ラシ罰ヲ科スルノ外其毀損物ノ代價ヲ償ハシムルコトアルヘシ但シ其償金ノ追徵モ鐵道寮ヨリ法官ヘ乞フトキハ法官ニ於テ追徵スヘシ

（參照）明治十六年七月第二十三號布告
○明治五年五月第百四拾六號布告鐵道略則及同六年三月第百一號布告鐵道犯罪罰例ハ私設鐵道ニモ適用ス

●私設鐵道條例

明治二十年五月　勅令第十二號

朕私設鐵道條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私設鐵道條例

第一條　旅客及荷物運輸營業ノ目的ヲ以テ鐵道ヲ布設セントスル者ハ發起人五人以上結合シ鐵道會社創立願書ニ起業目論見書ヲ添ヘ本社ヲ設置セントスル地ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ差出スヘシ

馬車鐵道ハ本條例定ムル所ノ限ニアラス

第二條　起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

第一　社名及本社所在地

第二　線路ノ兩端及其經過スヘキ地名但略圖ヲ添フヘシ

第三　資本金ノ總額及總株數並一株ノ金額

第四　鐵道布設ノ費用及運輸營業上ノ收支概算

第五　發起人ノ氏名住所及發起人各自ノ引受クヘキ株數但發起人總員ノ引受クヘ

●條例中政府トアルハ內閣ヲ指ス

明治二十年五月閣令第十四號

勅令第十二號私設鐵道條例中政府トアル場合ニ於テ事務ノ關渉ハ內閣ヲ指ス儀ト心得ヘシ

キ株數ハ總株數十分ノ二以上タルヘシ

第三條　政府ニ於テ第一條ノ願書及目論見書ヲ査閲シ起業ノ大體ニ不都合ナキト認ムルトキハ假免狀ヲ下付シ本社ヲ設立セントスル地ノ地方廳ニ令シ發起人ヲシテ線路圖面工事方法書工費豫算書及會社ノ定款ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

既設ノ鐵道ニ妨害ヲ生スルノ虞アリ又ハ其地方ノ狀況鐵道ノ布設ヲ要セスト認ムルトキハ願書ヲ却下スヘシ

第四條　政府ニ於テ前條ノ圖面書類ヲ審査シ妥當ナリト認ムルトキハ裁可ヲ經テ會社設立及鐵道布設ノ免許狀ヲ下付スヘシ

第五條　發起人前條ノ免許狀ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ鐵道布設ノ工事ニ著手セシムルコトヲ得ス

第六條　會社ハ免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以內ニ鐵道布設工事ニ著手シ免許狀ニ記載シタル豫定期限內ニ竣功スヘシ若シ其期限內ニ竣功シ難キ事由アルトキハ少クトモ二箇月以前本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ延期ヲ請フヘシ但其延期ハ豫定期限ノ半ヲ超ルコトヲ得ス

第七條　軌道ノ幅員ハ特許ヲ得タル者ヲ除クノ外總テ三呎六吋トス

第八條　左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一　線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス

第二　停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地

第三　前項ノ構內ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四　鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及同上ノ資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

第九條　鐵道布設ノ爲メ舊來ノ道路橋梁溝渠運河等ヲ變換シ又ハ一時之ヲ移設セントスルトキハ所管官廳ノ許可ヲ受クヘシ但其費用ハ會社ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十條　線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ若クハ踏切道ヲ設クヘシ其他危險防止ノ爲メ必要ノ場所ニハ牆柵門戶堤防ヲ設ケ若クハ番人ヲ配付スル等充分ノ警備ヲナスヘシ

第十一條　線路ノ全部若クハ一部ノ工事竣功シ旅客及貨物ノ運輸ヲ開業セントスルトキハ鐵道局長官ニ屆出ヘシ

第十二條　鐵道局長官ハ前條ノ屆出ニ依リ監査員ヲ派遣シテ工事方法書ニ照シ軌道橋梁車輛建物等ヲ監査セシメ完全ナリト認ムルトキハ開業免許狀ヲ下付スヘシ若

シ不完全ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

會社ハ前項ノ開業免許狀ヲ得スシテ運輸ノ業ヲ開クコトヲ得ス

第十三條　鐵道局長官ハ鐵道布設中臨時監査員ヲ派遣シテ工事ヲ監査セシメ又運輸開業ノ後ニ於テモ監査員ヲ派遣シテ軌道橋梁車輛建物等並運輸上ノ實況ヲ監査セシメ危險ナリト認ムルトキハ其改築修理ヲ命スヘシ但此場合ニ於テハ監査員ノ復命書ヲ會社ニ示スヘシ

第十四條　第十二條第十三條ノ改築修理ヲナシタルトキハ更ニ監査ヲ受クヘシ

第十五條　官有ノ土地ニシテ鐵道用地ニ必要ナルモノ及第九條ノ土地ハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下ケ其民有ニ係ルモノハ公用土地買上規則ニ據リ買上ケ會社ニ拂下クヘシ但其土地ニ建物アルトキハ本條ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第十六條　會社ニ於テ鐵道布設ヲ止メ又ハ線路ノ變更ニ依リ不用トナリタル鐵道用地ニシテ最初公用土地買上規則ニ據テ買上ラレタルモノハ原所有者ニ於テ原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

會社ハ前項ノ土地不用トナリタル旨ヲ原所有者ニ通知スヘシ若シ原所有者ニ於テ三箇月以內ニ之ヲ買戻サヽルトキハ其權利ヲ失フモノトス

第十七條　政府ハ鐵道用地內ニ於テ線路ニ沿ヒ電線ヲ架設スルコトヲ得又會社ハ其架柱ノ一部ヲ使用シ鐵道用ノ電線ヲ架スルコトヲ得但其一部ニ對スル費用ヲ支辨スヘシ

第十八條　會社ハ鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ無料ニテ郵便及ヒ電信ノ用ニ供スヘシ但政府ニ於テ建物ノ改造ヲ要シ又ハ用地ノ買上ヲナストキハ其費費ヲ支辨スヘシ

第十九條　明治十五年第五十九號布告郵便條例ニ依リ郵便物ト稱スル者及其遞送ニ關スル人員ノ運賃ハ左ニ記載スル割合ヲ以テ遞信省ト會社ト豫メ之ヲ約定スヘシ

第一　下等旅客二十人ノ坐位ニ當ル積量

一哩ニ付金壹錢五厘以內

第二　一車(四噸積)貸切

一哩ニ付金五錢以內

但車室ヲ構造シ又ハ之ヲ改造セシメタルトキハ遞信省ヨリ其費費ヲ支辨スヘシ

第二十條　鐵道事務ニ關シテ往復スル官吏ハ無料ニテ乘車セシムヘシ但其官吏ハ常乘切手ヲ帶ル者ニ限ル

第二十一條　公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又ハ軍馬銃砲彈藥糧食

被服陣具工鍬兵器具天幕等ハ總テ半價ヲ以テ輸送スヘシ但其公務タルコトヲ證スヘキ通劵ヲ帶ル者ニ限ル

第二十二條　囚徒及其護送官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ

第二十三條　戰時若クハ事變ニ際シテハ徵發令ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道ヲ使用セシムヘシ

平時ト雖トモ至急ニ兵隊ノ派遣ヲ要スル場合ニ於テハ當該官廳ノ命ニ從ヒ速ニ之ヲ輸送スヘシ但其運賃ハ第二十一條ノ例ニ依ル

第二十四條　陸海軍ニ於テ軍事上必要ノ爲メ車輛ニ改修ヲ加ヘ又ハ新裝置ヲ施シ或ハ載御用器具ノ製造ヲ命シ其實費ヲ支辨スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條　鐵道局長官ハ公衆ノ安全ノ爲メ官有鐵道ニ實施スル事物ハ會社ニ命シ之ヲ施設セシムルコトヲ得

第二十六條　政府又ハ政府ノ許可ヲ得タル者ニ於テ會社ノ鐵道線路ニ接續シ若クハ之ヲ横斷シテ鐵道ヲ布設シ又ハ會社ノ鐵道線路ニ接近シ若クハ之ヲ横斷シテ道路橋梁溝渠運河ヲ設クルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條　官設鐵道ニ施行スル規則ハ私設鐵道ニモ亦之ヲ適用スヘシ

第二十八條　會社ニ於テ工事ノ方法又ハ會社ノ定款ヲ變更セントスルトキハ本社所在ノ地方廳ヲ經由シテ政府ニ具申シ認可ヲ受クヘシ

第二十九條　旅客及貨物ノ運賃額又ハ運輸規程ヲ定メ若クハ之ヲ變更セントスルトキハ鐵道局長官ノ認可ヲ受クヘシ但下等旅客運賃額ハ一哩ニ付金一錢五厘ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス又其範圍内ニ於テ運賃額ヲ增加スル場合ニ於テハ少クトモ二週日前ニ之ヲ公示スヘシ

第三十條　列車發著時間及度數ヲ定メ又ハ之ヲ變更スルトキハ鐵道局長官ニ報告スヘシ

第三十一條　會社ハ半年度毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ四十日以内ニ鐵道局長官ニ差出スヘシ

第三十二條　會社ハ其財産ノ全部若クハ一部ヲ抵當トシテ負債ヲナスコトヲ得但其額ハ株主ヨリ拂込タル資本金額十分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

毎勘定季中ニ支拂フヘキ負債ノ元利金ヲ完償シタル後ニアラサレハ株主ニ純益金ノ配當ヲナスコトヲ得ス

第三十三條　會社ノ勘定ヲ分ツテ左ノ二種トス

第一　資本勘定　軌道車輛器械停車場土地建物等營業上收益アルヘキ物件ノ創設ニ係ル出納

第二　收益勘定　前項物件ノ維持保存ニ要スル費用及營業上ノ出納

第三十四條　私設鐵道ノ官設鐵道ニ接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ハ鐵道局長官之ヲ定ムヘシ

二箇以上ノ私設鐵道接續スル場合ニ於テ交互運輸ノ手續及賃金ノ割合等ニ係リ雙方ノ議協ハサルトキハ鐵道局長官ノ裁定ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ鐵道局長官ノ裁定ハ終局トス

第三十五條　政府ハ免許狀下付ノ日ヨリ滿二十五箇年ノ後（特ニ營業期限ヲ定メタルモノハ其滿期後）ニ於テ鐵道及附屬物件ヲ買上ルノ權アルモノトス

第三十六條　前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上ルトキハ前五箇年間ノ株券價格ヲ平均シ之ヲ以テ買上價格ト定ムヘシ

第三十七條　免許狀下付ノ日ヨリ三箇月以內ニ鐵道布設工事ニ著手セス又ハ豫定期限及延期內ニ竣功セサルトキハ免許狀ノ返納ヲ命スヘシ但事宜ニ由リ其既設ノ鐵道及附屬物件ヲ公賣ニ附シ其買受者ヲシテ之ヲ竣功セシムルコトアルヘシ

第三十八條　旅客及貨物輸送ノ際社員ノ疎虞懈怠又ハ故意ニ依リ損害ヲ生シタルトキハ會社其賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十九條　第五條ノ免許狀ヲ受ケスシテ社名ヲ以テ株金ヲ募集シ及鐵道布設ノ工事ニ著手シタルトキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理ヲナサスシテ營業ヲナシタルトキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス

第四十條　鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルトキハ政府ハ役員ヲ改撰セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス

第四十一條　本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

●私設鐵道條例第三條ノ線路圖面工事方法書並工費豫算書

明治二十年六月閣令第十六號

勅令第十二號私設鐵道條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書ニ關スル細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　線路圖面ハ左ノ諸圖トス

一、實測平面圖

縮尺六千分以上ニシテ線路ノ左右凡五十間以內ニ在ル建物田野等ヲ詳ニシ其事ニ著手シタルトキハ第三條ノ假免狀ヲ沒收シ第十二條ノ免許狀ヲ受ケス又ハ第十二條第十三條ノ改築修理ヲナサスシテ營業ヲナシタルトキハ鐵道局長官ハ之ヲ停止スヘシ但其營業中ノ收入金ハ之ヲ沒收ス

第四十條　鐵道運輸開業後會社ニ於テ此條例及會社定款ニ違背シ又ハ鐵道ノ正當ナル使用ヲ妨害シタルトキハ政府ハ役員ヲ改撰セシメ又ハ鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムヘシ但鐵道局ヲシテ運輸ノ業ヲ繼續セシムル場合ニ於テモ其營業上ノ損益ハ仍ホ會社ニ屬スヘキモノトス

第四十一條　本條例ノ細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

算書細則

明治二十年六月閣令第十六號

勅令第十二號私設鐵道條例第三條ニ列記スル線路圖面工事方法書並工費豫算書ニ關スル細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　線路圖面ハ左ノ諸圖トス

一、實測平面圖

縮尺六千分以上ニシテ線路ノ左右凡五十間以內ニ在ル建物田野等ヲ詳ニシ其

他市街村落山岳丘陵河海等ノ地形ヲ明カニシ鐵道中心線ハ赤色ヲ以テ彩リ距離ハ起點ヨリ一哩毎ニ之ヲ記シ更ニ細別シテ一哩八分ノ一毎ニ之ヲ記シ曲線ハ其直線ト接續點及半徑ヲ記シ又道路河流等ノ位置變換ヲ要スルモノハ變換ノ要點ヲ詳記スヘシ若シ他ノ鐵道線路ト連絡スルカ或ハ之ヲ横斷スル處アレハ該線路ノ前後各半哩以内ノ圖ヲ示スヘシ

二、實測縱斷面圖

縮尺ノ長サ平面圖ト同一ニシテ高サ千分ノ一以上ニシテ中心線地面ノ高低軌道ノ高低赤色築堤ノ高サ切取ノ深サ隧道橋梁溝渠ノ長サ及高サ等ヲ詳カニシ距離ハ平面圖ト同一ニ記シ高サハ尺ヲ以テ記シ又線路ノ勾配ヲ記入スヘシ

道路又ハ他ノ鐵道ヲ横斷スル所アレハ之ヲ詳記シ若シ該道路若クハ鐵道ノ勾配ニ變更ヲ要スルトキハ之ヲ記スヘシ

他ノ鐵道ト連絡スル場合ニハ該鐵道ノ前後各一哩間ノ勾配ヲ此圖中ニ記スヘシ

三、實測横斷面圖

縮尺適宜ニシテ中心線險崖ノ半腹ニアルカ如キ縱斷面圖ノミニテハ地形ヲ示スニ不十分ナル所ニハ之ヲ添付スヘシ

前記圖面ニ據リ工事ヲ實施スルニ當リ左ノ各項ニ注意スヘシ

一　線路ノ高低ハ市街ナレハ三尺以上其他ハ六尺以上變更スルヲ得ス

一　線路勾配ハ縱斷面圖ニ記セルモノヨリ緩ニスルヲ得

一　百分一ヨリ緩ナル勾配ヲ百分一ニ變更スルヲ得

一　百分一ヨリ急ナル勾配ハ認可ヲ經サレハ之ヲ急ニスルヲ得ス

一　曲線ノ半徑ハ平面圖ニ記セルモノヨリ長クスルヲ得

一　曲線ノ半徑四分ノ一哩以上ノモノヲ四分ノ一哩ニ變更スルヲ得

一　曲線ノ半徑四分ノ一哩以下ノモノハ認可ヲ經サレハ之ヲ短縮スルヲ得ス

一　平面圖ニ記スル中心線ノ移動ヲ要スルトキハ市街又ハ家屋稠密ノ地ナレハ左右各五間其他ハ五十間ヲ超ユルヲ得ス之ヲ超ユル時ハ更ニ認可ヲ經ヘシ

第二條　工事方法書ニハ左ノ事項ヲ詳記スルヲ要ス

一　土工ハ築堤切取ノ幅員傾斜面ノ勾配等詳記スヘシ

一　橋梁隧道等ハ其構造ヲ詳カニスルカ爲ニ必要ナル圖面及説明書ヲ附スヘシ

一　軌鐵ハ重量及其形狀ヲ明記スヘシ

一　車輛ハ機關車ノ形狀及重量客車貨車ノ容積等ヲ詳記スヘシ

一　停車場ハ縮尺六百分以上ノ平面圖ヲ以テ乘車場車庫轉車臺等ノ位置副線ノ

方向延長等ヲ詳記スヘシ

第三條　工費豫算書ハ左ノ書式ニ準據スヘシ

何々鐵道建設費豫算表　延長何哩何鎖單(若クハ複)線

費目	摘要			金額		合計	
用地費	土地何反何畝何歩	一反ニ付	0,00	0	00		
	家屋何棟何坪	一坪ニ付	0,00	0	00	0	00
土工費	切取何坪	一坪ニ付	0,00	0	00		
	築堤何坪	一坪ニ付	0,00	0	00		
	土留石垣及柵何坪又ハ何間一坪又ハ一間ニ付		0,00	0	00		
	溝付,道路付換,川溝付換,踏切道等同上一坪ニ付		0,00	0	00	0	00
橋梁費	何々川長何尺	一尺ニ付	0,00	0	00		
	何所避溢橋長何尺	—〃—	0,00	0	00		
	何所陸橋棧道等同上	—〃—	0,00	0	00	0	00
コルベルト費	橋梁ノ例ニ同シ	—〃—	0,00			0	00
伏樋費	何尺	—〃—	0,00			0	00
隧道費	何所長何尺	—〃—	0.00			0	00

	何所避溢橋長何尺	—〃—	0,00	0	00		
	何所陸橋棧道等同上	—〃—	0,00	0	00	0	00
コルベルト費	橋梁ノ例ニ同シ	—〃—	0,00			0	00
伏樋費	何尺	—〃—	0,00			0	00
隧道費	何所長何尺	—〃—	0,00			0	00
軌道費	鐵條何噸	一噸ニ付	0,00	0	00		
	枕木何本	一本ニ付	0,00	0	00		
	ポイント及クロツシング何組	一組ニ付	0,00	0	00		
	敷設費何哩	一哩ニ付	0,00	0	00		
	砂利敷費何坪	一坪ニ付	0,00	0	00		
	諸標費(里程勾配等)			0	00	0	00
停車場費	何驛何坪	一坪ニ付	0,00	0	00		
	機關車庫何坪	—〃—	0,00	0	00		
	客車庫何坪	—〃—	0,00	0	00		
	荷物庫何坪	—〃—	0,00	0	00		
	轉車臺,給水器,信號,石炭臺,測重器,器具等			0	00	0	00
車輛費	機關車何輛	一輛ニ付	0,00	0	00		
	客車,貨車等同上	—〃—	0,00	0	00	0	00
器械場	建物何坪	一坪ニ付	0,00	0	00		
	諸器械費			0	00	0	00
建物費	事務所,倉庫,役宅,番人小屋等何坪一坪ニ付		0,00			0	00
電線費	何哩	一哩ニ付	0,00			0	00
測量及工事監督費						0	00
創業費						0	00
豫備費						0	00
	通計					000	00

第四條　線路圖面工事方法書並工費豫算書ニハ其主任技術者ヲシテ署名セシムヘシ

●火藥類鐵道運送條規

明治十八年四月告示第十四號（工部省）

明治五年五月第百四拾六號公布鐵道略則第十六條ニ依リ火藥類鐵道運送條規左ノ通相定ム但此條規ハ私設鐵道ニモ適用スルモノトス

右告示候事

火藥類鐵道運送條規

第一條　火藥類ハ鐵道局ノ都合ヲ以テ之ヲ運送スルコトアルヘシ

第二條　火藥類ハ別仕立列車或ハ旅客車ヲ連續セサル普通ノ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ但兵員乘車ノ時其携帶スル彈藥ハ此限ニアラス

第三條　火藥類ヲ運送スルノ賃金ハ百斤ニ付一哩金壹錢貳厘ト定ム但三千五百斤以下及二十哩以內ト雖モ猶本數本哩ニ當ル金額即チ金八圓四拾錢ヲ徵スヘシ

第四條　火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類量數及送受人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ四拾八時間以前ニ鐵道局ニ差出シ其承諾ノ證ヲ領受スヘシ其證ナキトキハ之ヲ運送セサルモノトス但非常急劇ノ際ハ此時間ノ限ニアラス

第五條　火藥類ノ受渡ヲ爲スハ鐵道局員ニ限ルヘシ且其時間ハ日出後日沒前ニシテ

鐵道局ニ於テ特ニ指定スル日時ヲ限ルヘシ

第六條　火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ストキハ其桶箱等ハ成ルヘク互ニ手渡ヲ爲シ決シテ地上ニ投下シ又ハ轉輾セシムヘカラス若シ轉輾セサルヲ得サルトキハ必ス革布木綿等ヲ以テ其經過スヘキ地上ヲ蔽フヘシ

第七條　火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿チ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸烟スルヲ許サス

第八條　火藥類ノ受渡庫入荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖モ猶豫スヘカラス又其事ニ預ラサル他人ノ其場ニ近クヲ防クヘシ

第九條　火藥類停車場若クハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以內ニ其受取方ヲ爲スヘシ此時間ヲ過クレハ一時間毎ニ一噸ニ付金貳圓ノ遲滯料ヲ徵スヘシ

第十條　鐵道局ハ火藥類ノ受渡庫入運送荷揚積荷ノ爲メ火藥類ニ生シタル損害并ニ之ニ原因シテ他ニ及ヒタル損害ハ勿論其他何等ノ事アルモ其責ニ任セサルモノトス但鐵道局員ノ過失ニ因テ起ルモノハ此限ニアラス

第十一條　火藥類ノ運送ヲ委托スル者ハ前ニ列記シタル條規ヲ承認シタル證トシテ鐵道局ヨリ下付シタル條規寫書ノ端末ニ署名捺印スヘシ

●幌內鐵道火藥類運送條規

明治十九年一月
農商務省告示第二號

當省所轄幌內鐵道火藥類運送條規左ノ通相定ム此旨告示ス

幌內鐵道火藥類運送條規

第一條　火藥類ヲ運送セントスル者ハ其名稱種類數量及受取人ノ氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ發車四拾八時間以前ニ積出スヘキ停車場ニ差出シ承認ノ證ヲ領受スヘシ

第二條　火藥類ハ積送ノ停車場ニ到著シタル時ヨリ六時間以內ニ受取ヘシ此時限ヲ過ルトキハ一時間毎ニ目方拾貳貫目ニ付金拾錢ノ割ヲ以テ遲滯料ヲ徵收スヘシ

第三條　火藥類受渡ヲ爲スハ停車場吏員ニ限ルヘシ其受渡時間ハ日出後日沒前ニシテ特ニ指定スル時日ニ限ルモノトス但時機ニ依リ日沒後ニ渡方ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　非常事變ニ際シ火藥類受渡運送急ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ第一條第三條ノ時限ニ拘ラス便宜處分スヘシ

第五條　火藥類運送ハ貨物列車ヲ以テシ若シ貨物列車ヲ差立サルトキハ通常列車ニ積載スルコトアルヘシ但陸海軍人携帶スル彈藥ハ此限ニアラス

第六條　火藥類受渡庫入等ヲ爲ストキハ互ニ手渡ヲ爲シ決テ地上ニ投下シ又ハ轉輾スヘカラス若シ轉輾セサルヲ得サルトキハ經過スヘキ地上ニ必ス革布木綿等ノ類ヲ敷クヘシ

第七條　火藥類荷造成規ニ牴觸スルモノハ一切運送セサルモノトス

●鐵道工事請負規則

明治二十三年十月
鐵道廳告示第一號

鐵道廳工事請負規則

第一章　競爭契約

第一條　工事請負ノ競爭ニ加ハラントスル者若クハ其契約ヲ結ハントスル者會計規則第六十九條ノ證明ヲ爲サントスルトキハ自己ノ履歷書竝ニ二年以來從事シタル工事ノ種類及施行場所ヲ記シタル書面其他其工事ノ監督者若クハ請負ヲ命シタル者ノ證明書ヲ鐵道廳ニ差出スヘシ

會社製造所商會等ニシテ官ノ認許ニ依リ營業スルモノハ其認許狀寫ヲ以テ前項ノ證明書ニ代用スルコトヲ得

第二條　工事請負ノ競爭ニ加ハラントスル者ハ會計規則第七十三條ニ依リ鐵道廳ノ掲示若クハ公告シタル入札期日ノ三日前マテニ前條ノ證明書ヲ競爭執行ノ主務官吏ニ差出シ其許可ヲ受ケテ工事ノ設計仕譯書契約書案及現場ノ實況ヲ熟視スヘシ

第三條　鐵道廳主務官吏ニ於テ第一條ノ證明書ヲ不充分ト認ムルトキハ入札期日前ニ之ヲ差出人ニ還付シテ訂正セシムヘシ訂正セシムルモ尙不充分ナルトキハ其者ノ入札ヲ差止ムヘシ

第四條　會計規則第六十九條第二項ノ保證金ハ入札期日ニ於テ入札ヲ爲ス前入札人ヨリ主務官吏ニ差出スヘシ

契約保證金ハ結約ノ時請負人ヨリ鐵道廳ニ納ムヘシ

公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムルトキハ前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ其金高ヲ算シ且書入證書ヲ添付スヘシ此場合ニ於テ利札ハ利子ノ拂渡期日前ニ下付ス

第五條　入札書ニハ工事ノ種類及請負金額ヲ記シ其次ニ入札人ノ職業住所ヲ記シ署名捺印スヘシ他人ノ代理トシテ入札スルトキハ委任狀ヲ添付スヘシ

第六條　入札保證金ハ開札ノ後落札者ノ分ヲ除キ直ニ還付ス

落札者ノ入札保證金ハ契約保證金ヲ納ムルトキ之ヲ還付ス

第七條　落札者ハ開札後四十八時間內ニ會計規則第八十條及本規則第二條ノ契約書案ニ依リ契約ヲ締結スヘシ

第八條　契約保證金ハ工事落成シテ鐵道廳主務官吏ノ檢査ヲ終ル後還付スルモノト

ス

第二章　契約ノ條件

第九條　會計規則第八十條ニ記載スル契約違背者ノ保證金處分及契約ニ要スル其他ノ條件ハ本章ノ規定ニ準據シ各工事ノ契約書案ニ之ヲ記入スヘシ

第十條　請負人契約ヲ爲シタル後左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其契約ヲ解クヘシ

第一　鐵道廳ノ許可ヲ得スシテ約定ノ日限ニ起工セサルトキ

第二　見込違若クハ其他ノ事故ヲ申立テ契約ノ條件ヲ變更セントスルトキ若クハ解約ヲ請フトキ

第三　失踪スルトキ

第四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破產若クハ家資分散ノ處分ヲ受ケタルトキ

前項第一第二ノ場合ニ於テ起工前解約スルトキハ違約金トシテ契約保證金ノ內ヨリ請負金高百分ノ十ニ相當スル金額ヲ鐵道廳ニ收入シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第三第四ノ場合ニ於テ起工前解約スルトキハ違約金トシテ契約保證金ノ全額ヲ鐵道廳ニ收入ス

第十一條　請負人起工後前條第一第二第三若クハ第四ノ事項ニ當ルトキ又ハ鐵道廳ノ許可ヲ受ケスシテ工事ヲ休止スルトキ其他契約ニ違反シタルトキハ契約ヲ解キ契約保證金ヲ鐵道廳ニ收入ス

前項ノ場合ニ於テ工事既成ノ部分アルトキハ鐵道廳ハ其既成部分ニ對シ相當ト認ムル費額ヲ支拂ヒ其部分ノ受渡ヲ爲スヘシ但既成部分ニシテ豫定ノ設計及仕譯ニ違ヒタルモノアルトキハ鐵道廳ハ相當ノ期限ヲ示定シ請負人ノ私費ヲ以テ之ヲ取拂ハシムルコトヲ得

請負人其期限內ニ取拂ヲ爲サヽルトキハ既成部分ハ官有トシ之ニ要シタル費額ハ本人ノ損失トス

第十二條　請負人ハ工事施行中其工事ニ付鐵道廳主務官吏ノ監督ヲ受クヘシ

工事ニ使用スヘキ材料ハ豫メ主務官吏ノ檢査ヲ受クヘシ

主務官吏ニ於テ材料ノ品質不良ニシテ用ニ堪エスト認ムルトキハ其使用ヲ差止メ更ニ相當ノ材料ヲ供給セシムヘシ之カ爲メ增費ヲ要スルトキハ請負人ノ負擔トス

第十三條　工事施行中鐵道廳ニ於テ豫定ノ設計若クハ仕譯ニ違ヒタル部分アリト認ムルトキハ期限ヲ定メテ改造ヲ命スヘシ

請負人其改造ヲ爲サヽルトキハ第十一條ノ例ニ依ル

第十四條　天災事變其他ノ故障ニ由リ請負人契約上ノ期限ヲ延ハサントスルトキハ

鐵道廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス

第十五條　請負人ノ違約ニ由テ生スル直接若クハ間接ノ損害ハ鐵道廳ニ於テ辨償ノ責ニ任セス

第十六條　請負金ハ工事ノ全部落成シテ主務官吏ノ檢査ヲ終ル後之ヲ支拂フモトノス但工事ノ全部落成前請負人ヨリ既成ノ部分ニ對シ支拂ヲ請求スルトキハ會計規則第六十七條及第六十八條ノ規定ニ依ル

第十七條　本規則第十條乃至第十六條ニ掲クル條件ノ外特種ノ工事ニ對シ特別ノ條件ヲ必要トスルトキハ之ヲ契約書案ニ記入スヘシ

第三章　隨意契約

第十八條　隨意契約ノ保證金ハ本規則第四條第二項第三項及第八條ノ例ニ依ル

第十九條　隨意契約書案ハ會計規則第八十條第八十一條及本規則第十條乃至第十七條ノ規定ニ準據シテ之ヲ調製スヘシ

第二十條　一口五百圓未滿ノ隨意契約ヲ爲スニ當リ會計規則第八十二條第一ノ書類ヲ以テ契約書ニ代用スルトキハ鐵道廳ニ於テ工事ノ設計仕譯書ヲ請負人ニ示シ請負金高及請負人ノ職業住所氏名等ヲ其書類ノ末尾ニ記入セシムヘシ

第二十一條　會計規則第八十二條第一第二第三ノ書類ヲ以テ工事請負ノ隨意契約書ニ代用スル場合ニ於テ請負人ヲシテ本規則第十條乃至第十六條ニ掲クル條件並ニ其他ノ條件ヲ履行セシムヘキ必要アルトキハ之ヲ書面ニ認メ請負人ニ署名捺印セシムヘシ

●鐵道廳賣買規則

明治二十三年十月
鐵道廳告示第二號

鐵道廳物品賣買規則左ノ通リ相定ム

鐵道廳物品賣買規則

第一條　物品供給ノ競爭ニ加ハラントスル者會計規則第六十九條ノ證明ヲ爲サントスルトキハ自己ノ履歷書並ニ二年以來物品供給ニ從事シタル旨ヲ證スルニ足ルヘキ書類ヲ鐵道廳ニ差出スヘシ

會社製造所商會等ニシテ官ノ認許ニ依リ營業スルモノハ其認許狀寫ヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ證明書ハ會計規則第七十三條ニ依リ鐵道廳ノ掲示若クハ公告シタル入札期日ノ三日前マテニ競爭執行ノ主務官吏ニ差出スヘシ

主務官吏其證明書ヲ不充分ト認ムルトキハ入札期日前ニ之ヲ差出人ニ還付シテ訂正セシムヘシ訂正セシムルモ尙不充分ナルトキハ其者ノ入札ヲ差止ムヘシ

第三條　物品供給ノ競爭ニ加ハラントスル者ハ前條ノ證明ヲ爲シタル後鐵道廳官吏ノ指示スル標本、雛形、設計圖又ハ製造方法書竝ニ契約書案ヲ熟視スヘシ

前項ノ標本、雛形、設計圖ノ記號若クハ番號ハ供燈ノ爲メ契約書ニ記入スルコトヲ得又其標本、雛形等ハ請負人ノ請求ニ依リ日數ヲ定メテ之ヲ貸與スルコトアルヘシ貸與中破損亡失スルトキハ請負人其損失ヲ補償スヘシ

第四條　物品賣拂ノ競爭ニ加ハラントスル者ハ豫メ現品數量等ヲ熟視スヘシ

第五條　入札書ハ別ニ定ムル所ノ入札書式ニ依リ之ヲ作リ封緘シテ投函スルモノトス他人ノ代理トシテ入札スルトキハ委任狀ヲ添付スヘシ

第六條　入札書ノ見積價格ヲ定ムルニ單價ヲ其合計金額ト爲スニ當リ總計ニ誤謬アルトキハ其改正ヲ許スト雖トモ單價ノ改正ハ之ヲ許サス

第七條　入札書ハ第三條若クハ第四條ノ手續ヲ爲シタル後開札日時マテ何時ニテモ投函スルコトヲ得

投函シタル入札書ハ開札前ニ其入札人ヲシテ封緘ヲ點檢セシムヘシ

第八條　會計規則第六十九條第二項ノ保證金ハ入札期日ニ於テ入札ヲ爲ス前入札人ヨリ主務官吏ニ差出スヘシ

契約保證金ハ結約ノ時請負人ヨリ鐵道廳ニ納ムヘシ

公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムルトキハ前月ノ東京取引所ノ平均相場ニ依リ其金高ヲ算シ且書入證書ヲ添付スヘシ此場合ニ於テ利札ハ利子ノ拂渡期日前ニ下付ス

第九條　入札保證金ハ開札ノ後落札者ノ分ヲ除キ直ニ還付ス

落札者ノ入札保證金ハ契約保證金ヲ納ムルトキ之ヲ還付ス

第十條　落札者ハ開札後四十八時間內ニ會計規則第八十條及本規則第三條ノ契約書案ニ依リ契約ヲ締結スヘシ

第十一條　契約保證金ハ天災事變ノ場合ヲ除クノ外請負人契約ニ違反スルトキ契約書ニ揭クル處分法ニ依リ全額若クハ其幾分ヲ鐵道廳ニ收入ス

第十二條　契約書ハ二本ヲ作リ一本ハ鐵道廳ニ留メ一本ハ本人ニ下付ス

第十三條　期限ヲ定メ其期限內隨時物品供給ノ契約ヲ結ヒタル者非常急遽ノ際注文ヲ受クルモ供給ニ應スルコト能ハサル場合ニ於テハ鐵道廳ハ其需用高ヲ他人ニ注文シ既定ノ請負高ヲ減額スルコトアルヘシ

第十四條　隨意契約ハ請負人若クハ拂受人ヨリ積書ヲ出タサシメ適當ト認ムルトキハ其契約ヲ締結スルモノトス又二名以上ノ請負人若クハ拂受人ヲ指名シ入札ヲ以テ買入ハ最低價賣拂ハ最高價ノモノト其契約ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　契約ヲ爲シタル後天災事變ノ場合ヲ除ク外解約ヲ請フトキハ違約金トシテ請負金高ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ徵收シテ契約ヲ解クヘシ但保證金ヲ徵收シタル契約ニ在テハ保證金ノ全額ヲ鐵道廳ニ收入シテ契約ヲ解クヘシ

第十六條　隨意契約ノ場合ニ於テモ請負人及拂受人ハ本規則第三條若クハ第四條ノ規定ニ依ルモノトス

第十七條　買入金高五百圓未滿ノ隨意契約ヲ爲スニ當リ會計規則第八十二條第一ノ書類ヲ以テ契約書ニ代用スルトキハ鐵道廳ニ於テ物品ノ種類品質數量價格及其納メ場所ヲ記シタル書面ヲ請負人若クハ拂受人ニ示シ之ヲシテ書面ノ末尾ニ署名捺印セシムヘシ

第十八條　會計規則第八十二條第一第二第三ノ書類ヲ以テ物品賣買ノ隨意契約書ニ代用スル場合ニ於テ鐵道廳ハ本規則ニ揭クル條件ノ外請負人若クハ拂受人ヲシテ緊要ナル條件ヲ履行セシムヘキ必要アルトキハ之ヲ書面ニ認メ請負人若クハ拂受人ニ署名捺印セシムヘシ

第十九條　鐵道廳檢査委員ハ供給物品ノ品質數量等ノ檢査ヲ行ヒ其納入ノ可否ヲ決ス

第二十條　物品供給ノ請負人其受渡場所ニ於テ物品ヲ納付スルトキハ供給物品品質數量價格及受渡時日ヲ記載シタル納書ヲ作リ檢査委員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ物品出納主任ニ交付スヘシ其領收濟迄ノ雜費ハ請負人ノ負擔トス

第二十一條　物品出納主任ハ請負人ヨリ納付シタル物品ト其納書トヲ點檢シ符合セサルトキハ其事故ヲ納書ニ加書シ請負人ニ交付ス該請負人ハ訂正ノ上更ニ檢査委員ノ檢印ヲ受ケ之ヲ出スヘシ

第二十二條　天災事變其他ノ故障ニ由リ請負人契約上ノ期限ヲ延ハサントスルトキハ鐵道廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス

天災事變ノ場合ヲ除クノ外延期ノ許可ヲ受ケタルトキハ延期一日ニ付請負金高百分ノ一ヲ請負人ヨリ鐵道廳ニ納ムヘシ

第二十三條　供給物品ニハ製造所若クハ供給者ノ記號ヲ付スヘシ若シ其記號ヲ付スルコト能ハサルトキハ其外箱若クハ包布ニ之ヲ付スヘシ

第二十四條　檢査委員ニ於テ供給物品ノ不合格ナルヲ認定シ其納付ヲ排却シタルトキハ其調書ヲ作リ請負人ニ下付ス此場合ニ於テハ代納ヲ爲スコトヲ得

第二十五條　請負人ニ於テ排却セラレタル物品ノ修繕又ハ改良ヲ加フレハ其用ニ適シ領收シ得ラルヘキモノト思考スルトキハ三日以內ニ契約擔當主任官ニ申立ルコトヲ得

第二十六條　契約擔當ノ主任官前條ノ申立ヲ採用スルトキハ修繕若クハ改良ヲ加ヘシメ更ニ檢査委員ノ檢査ヲ受ケシムヘシ其修繕若クハ改良ヲ加ヘタル物品ニシテ再ヒ排却セラレタルトキハ更ニ之ヲ納付スルコトヲ許サス

第二十七條　排却セラレタル物品ハ主任官吏ニ於テ請負人ニ命シ日限ヲ定メテ之ヲ他所ニ搬移セシムヘシ請負人其日限ヲ過キテ之ヲ搬移セサルトキハ其翌日ヨリ起算シ延滯一日毎ニ物品ノ價格百分ノ一ニ相當スル金額ヲ鐵道廳ニ納ムヘシ搬移日限ヲ過キレハ鐵道廳ハ其物品ヲ他所ニ搬移シ之カ費用ヲ請負人ヨリ納メシムルコトヲ得

第二十八條　供給物品風袋ノ重量ハ檢査委員ノ定ムル所ニ依ル又物品ノ外箱包布等ハ鐵道廳ノ所得トス

第二十九條　檢査ニ供用シタル物品ノ殘餘ハ檢査後十日以內ニ請求アルトキ之ヲ還付ス其供用シタル物品ニ對シテ鐵道廳ハ補償ヲ爲サス

第三十條　使用地外ニ於テ檢査若クハ領收スル物品ト雖モ請負人ニ於テ之ヲ其使用地マテ運搬スヘキ契約アルトキハ運搬中ニ起ル物品ノ損耗變質其他ノ損害ハ總テ請負人ノ負擔トス

第三十一條　非常急遽ノ際至急供給ヲ要スル物品アルトキ既ニ同種ノ物品臨時供給ヲ請負ヒタル者アレハ其納付期限ヲ定メ其事故ヲ告知シ請書ヲ徵スルモノトス若シ請書ヲ差出サス若クハ日限內ニ之ヲ納付セサルトキハ他人ヨリ供給セシムルコトヲ得

第三十二條　會計規則第八十條ニ記載スル契約違背者ノ保證金處分及契約ニ要スル其他ノ條件ハ此規則ニ準據シ物品供給若クハ物品賣拂ノ契約書案ニ之ヲ記入スヘシ

第三十三條　請負人契約ヲ爲シタル後左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ其契約ヲ解クヘシ

第一　鐵道廳ノ許可ヲ得スシテ約定ノ期限ニ違ヒタルトキ

第二　見込違若クハ其他ノ事故ヲ申立テ契約ノ條件ヲ變更セントスルトキ若クハ解約ヲ請フトキ

第三　失踪スルトキ

第四　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ破產若クハ家資分散ノ處分ヲ受ケタルトキ

第三十四條　前條ニ依リ解約スルトキ及其他請負人契約ニ違反シタルニ由リ解約スルトキハ契約保證金ヲ鐵道廳ニ收入ス

第三十五條　契約ニ由リ數期ニ納付スル物品不合格ニシテ其過半ヲ排却スルコト二

回ニ及フトキハ其契約ヲ解キ保證金ヲ鐵道廳ニ收入ス

第三十六條　物品拂受人日限内ニ拂受代金ヲ納付セサルトキハ其契約ヲ解キ保證金ヲ鐵道廳ニ收入ス但代金ヲ數期ニ納付スル契約アリテ既納ノ代金アルトキハ之ヲ還付シ又ハ之ニ相當スル物品ヲ交付ス

第三十七條　請負人及拂受人ノ違約ニ由テ生スル直接若クハ間接ノ損害ハ鐵道廳ニ於テ辨償ノ責ニ任セス

●鐵道廳ニテ物件ノ賣買貸借ハ隨意契約ニ依ルヲ得

明治二十三年十一月
勅令第二百七十七號

朕鐵道廳ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ賣買貸借スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道廳ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其他材料素品ヲ私設鐵道會社ヨリ買上借入又ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●第二十八類

○土地

●地所名稱區別

明治七年十一月
布告第百二十號

（明治十二年第三十四號布告ヲ以テ第一種中區入費ヲ地方税ト改メラル）

（明治八年第百十四號布告ヲ以テ但書共改正同十二年第三十四號布告ヲ以テ第二種中區入費ヲ賦スルコトアルヲ地方税ヲ賦セサルト改メラル）

（明治十二年第三十四號布告ヲ以テ第三種中區入費ヲ地方税ト改メラル）

明治六年三月第百十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

官有地

第一種　地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方税ヲ賦セサルヲ法トス

一　皇宮地　皇居離宮等ヲ云

一　神地　伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種　地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方税ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス

但此地ニ在ル官舍ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

一　皇族賜邸

一　官用地　官院省使察司府藩縣本支廳裁判所警視廳陸海軍本營其他政府ノ許可ヲ得タル所用地ヲ云

第三種　地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方税ヲ賦セサルヲ法トス

（明治十二年第三十四號布告ヲ以テ第三種但書中借地料以下改正セラル）

但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ

一　山岳丘陵林藪原野河海湖沼池溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサル者

一　鐵道線路敷地

一　電信架線柱敷地

一　燈明臺敷地

一　各所ノ舊跡名區及公園等民有地ニアラサルモノ

一　人民所有ノ樹理ヲ失セシ土地

一　民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一　行刑場

（明治十二年第三十四號布告ヲ以テ第四種中區入費ヲ賦スルトアルヲ地方税ヲ賦セサルト改メラル）

第四種　地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方税ヲ賦セサルヲ法トス

一　寺院大中小學校説教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

（明治十二年第三十四號布告ヲ以テ第一種第中一項區入費ヲ地方税ト改メラル）

民有地

第一種　地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方税ヲ賦スルヲ法トス

一　人民各自所有ノ確證アル耕宅地山林等ヲ云フ

但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖モ潰地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變

（第一種第二項ハ元第二種ナルヲ明治九年第八十八號布告ヲ以テ第一種ニ合ス）

（明治九年第八十八號布告ヲ以テ第一種第三項ハ元第三種ナルヲ第二種ト改メラル同十二年第三十四號布告ヲ以テ區入費ヲ地方税ト改メラル）

（明治八年第百十四號布告ヲ以テ本項ヲ改正セラル）

（明治八年第百五十四號布告ヲ以テ第二種第二項中ヲ追加セラル）

（明治十三年第四十三號布告ヲ以テ第二種第三項但書共追加セラル）

換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一　人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺官有地ニアラサル土地ヲ云

但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖トモ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

第二種　地券ヲ發シテ地租地方税ヲ賦セサルヲ法トス

一　官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云フ

一　民有ノ用惡水路溜池敷及井澤敷地

一　公衆ノ用ニ供スル道路

但地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

●地方廳賦金ヲ以テ設置スル傳習所其他ノ地所ハ官有地第四種トス

明治八年九月
内務省達乙第百十四號

各地方廳ニ於テ賦金ノ内ヲ以テ建設スル傳習所女工教場及ヒ病院貧院等地所ノ儀ハ官有地第四種ニ編入候條既ニ建設シタル分トモ右ニ照シ伺出候儀ト可相心得此旨相達候事

但民有地借受建設ノ分地種組入方ハ此限ニ非ス

●市街郡村掲示場敷地ハ官有地第三種ニ組入

明治八年五月
（太政官）達第七十三號

市街郡村ニ屬スル掲示場敷地ノ儀從來官有地ニ有之分ハ勿論將來官有地ニ新設候分トモ官有地第三種ニ組入ヘシ尤新設修繕等一切ノ費用ハ其村市ニ於テ可相辨此旨相達候事

但民有地ニ建設候節ハ夫々取調內務省ヘ可申出事

●御歷代御殯斂地等官有地第三種トナス

明治八年五月
內務省達乙第六十六號

御歷代天皇及ヒ皇后皇妃皇子皇女御殯斂地等御由緒判然タル場所ハ官有地第三種舊跡名區ノ部ニ編入保存可致候條御由緒等詳密調査ヲ遂ケ地形坪數等明詳記載圖面相副可伺出此旨相達候事

●官營ニ關スル倉庫家屋敷地等ハ總テ官有地第三種ニ据置ク件

明治十年二月
內務省達乙第十六號

明治七年乙第二十八號並同年乙第五十八號ヲ以テ相達候官營ニ關スル倉庫及家屋等將來使用ノ目途ヲ以テ存置スルモノ又ハ拂下ケ殘ノ分ト雖モ追テ使用候歟或ハ拂下ケ候迄ハ其敷地ハ總テ官有地第三種ニ据置候儀ト相心得可申此旨相達候事

但使用候節ハ其時々經伺ノ上官有地第二種官用地ヘ組替可申事

●第二種官有地ハ人民使用ノ外協議費ノ賦課ニ應セス

明治十六年八月
（太政官）達第三十一號

官有地第二種官用地ハ人民ニ使用ヲ許シタルモノヲ除クノ外其所在區町村協議費ノ賦課ニ應セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但道路疏水等ノ爲メ該區町村ヘ手當金ヲ給與スルハ各廳ノ適宜タルヘシ

●名所古蹟等ハ破壞伐木ヲ禁ス

明治五年四月
大藏省達第五十三號

先般荒蕪除地等拂下ノ儀公布相成候ニ付テハ於各地方古來ヨリ聲譽ノ名所古蹟等ハ素ヨリ國人ノ賞觀愛護スヘキ者ニ付右等ノ場所ハ明リニ破壞伐木セサル樣篤ト注意可致事

●公園地撰定方

明治六年一月
布告第十六號

三府ヲ始人民輻湊ノ地ニシテ古來ノ勝區名人ノ舊跡等是迄群集遊觀ノ場所（東京ニ於テハ金龍山淺草寺東叡山寛永寺境内ノ類京都ニ於テハ八阪社清水ノ堺内嵐山ノ類總テ社寺境内除地或ハ公有地ノ類）從前高外除地ニ屬セル分ハ永ク萬人偕樂ノ地トシ公園ト可被相定ニ付府縣ニ於テ右地所ヲ選ヒ其景況巨細取調圖面相副ヘ大藏省ヘ可伺出事

●上地セシ社寺地處分方

明治九年五月
布告第六十六號

明治三年（十二月）社寺境内ヲ除クノ外上地ノ儀布告候處朱黑印除地上地ノ中内實ハ賣買又ハ質入ト相成候者モ有之哉ノ趣不都合ノ至ニ候得共此布告以前ニ係ル者ハ特別ノ詮議ヲ以テ其罪ヲ問ハス更ニ民有地トナシテ差支無之分ハ賣買地ハ買得者ヘ流質地ハ質取主ヘ其儘無代價ニテ下渡シ其民有地トナシ差支アルモノ並質地年限中ノ分ハ上地セシムヘシ若シ此布告以後ニ係ルモノハ律ニ照シ處分スヘク候條此旨布告候事

●各地ニ唱フル字名ハ改稱變更ヲ禁ス

明治十四年九月
（太政官）達第八十三號
府縣

（參照）明治十六年十月（太政官）達第四十五號　公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スルトキ每一校五町歩以内無借地料使用許候條官有地ノ内差支ナキ場所ヲ撰ミ内務省ヘ申出ヘシ此旨相達候事

各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚多ク土地爭訟ノ審判歷史ノ考証地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ候條漫ニ改稱變更不致樣可心得此旨相達候事

但實際已ムヲ得サル分ハ時々内務省ヘ可伺出事

●公立學校敷地無代價下渡坪數制限ノ件

明治十三年一月
（太政官）達第六號

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀ニ付明治七年九月第百三十一號ヲ以テ相達置候處今般教育令布告候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ無代價ニテ可下渡候條官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ内務省ヘ可申出此旨相達候事

●公立學校敷地下渡方府縣ヘ委任

明治十三年三月
内務省達乙第八號

本年第六號ヲ以テ布達相成候公立學校設置ノ地所下與候儀更ニ其府縣ニ委任候條府縣限處分ノ後當省ヘ可屆出此旨相達候事

但市街地及森林ハ此限ニアラス

●公立農學校等ノ敷地無代價下渡方　明治十四年三月（太政官）達第十號

明治十三年一月第六號ヲ以テ公立小學校公立中學校公立專門學校等設置ノ地所ハ無代價ニテ可下渡旨相達候處今般教育令改正布告候ニ付テハ自今公立農學校公立商業學校公立職工學校設置ノ地所モ公立專門學校同樣可取計此旨相達候事

●陸軍省所轄土地家屋貸渡規則ヲ定ム　明治十八年十二月　陸軍省達第五十二號

陸軍省所轄土地家屋貸渡規則左之通相定候條此旨相達候事

但明治十一年達甲第二十二號達土地家屋人民ニ貸渡規則ハ廢止ス

陸軍省所轄土地家屋貸渡規則

第一條　陸軍省所轄ノ土地家屋等一時使用セサルモノハ此規則ニ因リ人民ニ貸渡スヘシ

第二條　土地家屋等借用セントスル者ハ所管工兵方面若クハ所在府縣廳ノ許可ヲ得實地一覽ノ上其使用ノ目的ヲ詳ニシ借用期限ヲ定メ略圖及ヒ借料金取調書ヲ添ヘ府縣廳ニ出願スヘシ

第三條　府縣廳ニ於テ前條ノ願ヲ受ケタルトキハ其借料金等ノ當否ヲ調査シ不都合

●陸軍省所轄土地家屋貸渡規則中改正　明治十九年四月　陸軍省令甲第十四號

明治十八年十二月北海道廳府縣當省達甲第五十二號陸軍省所轄土地家屋貸渡規則中左ノ通改正ス、第二條中「所管工兵方面」ヲ「該地所管ノ陣營經理部」ニ改ム、第三條第六條但書第七條第九條第十六條及ヒ第十七條中「工兵方面」ヲ「鎮臺監督部」ニ改ム、第四條但書中「工兵方面」ヲ「鎮臺監督部」ニ改メ「於テハ」ノ下「修繕ヲ加ヘ」ヲ「陣營經理部ヲシテ修繕ヲ加ヘシムルカ」ニ改ム、第十二條中「時トシテ工兵方面ヲシテ」ヲ「時トシテ鎮臺監督部若クハ

ナキモノハ該地所管ノ工兵方面ニ協議ヲ遂ケ其許諾ヲ得タルトキハ願人ヨリ借用證書圖面及ヒ明細書各二通ヲ出サシメ其一通ハ府縣廳ニ止メ置キ其一通ニ府知事縣令添書シテ工兵方面ニ送附スルノ後願人ニ貸渡スヘシ

第四條　地所家屋等貸渡中保存修繕ハ勿論一切ノ掃除トモ借受人ニ於テ負擔スヘシ

但天災地變（地震洪水暴風火災等ヲ云フ）ニ因リ大破ヲ生シ借受人ニ於テ修繕ヲ加ヘ難キトキハ速ニ府縣廳ニ屆出テ府縣廳ヨリハ所管ノ工兵方面ニ移牒スヘシ工兵方面ニ於テハ修繕ヲ加ヘ又ハ返附ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　借料金ハ近隣ノ地主或ハ家主ノ收納額ヲ基本トシ其地内ニ產出物（桑茶蔬菜筍類等）アルトキハ豫メ其收獲高ヲ量リ調査スヘシ

但家屋ノ借料金ハ借用中施スヘキ修繕費ヲ除去シ其殘額ヲ以テ定ムヘシ

第六條　借用中家屋建築樹木栽植ハ之ヲ許サス

但使用ノ目的ニ因リ速ニ取除ケ易キ假屋建築苗木栽培等ハ許スコトアルヘシ故ニ之ヲ要スルトキハ府縣廳ヲ經テ所管ノ工兵方面ニ出願スヘシ

第七條　借用中建物解除樹木伐採及ヒ土地家屋ノ形狀變換等ヲ爲スコトヲ許サス若シ樹木立枯倒木等アルトキハ府廳縣ニ屆出テ府縣廳ヨリハ所管ノ工兵方面ニ通報スヘシ

陣營經理部」ニ改メ「從ハサルトキハ」ノ下「工兵方面」ヲ「陣營經理部」ニ改ム、書式中各宛テ名「工兵第何方面提理姓名」ヲ「某鎮臺監督部長姓名」ニ改ム

第八條　借受人ハ其土地家屋等他ニ貸渡スコトヲ許サス故ニ若シ一人ニテ借用ナシ難キ場所ハ其區域ヲ定メ數人連署ニテ出願スヘシ

第九條　貸渡期限ハ滿十二箇月ヲ一期トシ第三期即チ滿三十六箇月迄ハ貸渡スコトアルヘシ其滿期後繼續借用セントスルモノハ尚三期以内ノ期限ヲ定メ府縣廳ニ出願スヘシ府縣廳ニ於テハ更ニ工兵方面ニ協議ヲ遂ケ然ル後願人ニ貸渡スモノトス

但陸軍省ニ於テ使用スヘキ事項ヲ生シタルトキハ貸渡期限内ト雖モ返附セシムヘシ

第十條　前條繼續借用ヲ出願スルハ滿期一箇月以前ニ於テスヘシ其以後ニ出願スルモノハ貸與ヲ許サス

第十一條　土地家屋等貸渡中其町村ニ係ル協議費ハ總テ借受人ニ於テ支辨スヘシ

第十二條　土地家屋等貸渡中時トシテ工兵方面官員巡回檢査シ保存ニ關スル修繕不行屆ノ箇所アレハ差圖シテ修繕セシムルコトアルヘシ若シ其差圖ニ從ハサルトキハ工兵方面ニ於テ修繕ヲ加ヘ其費金ハ借受人ヨリ辨償セシムルコトアルヘシ

第十三條　前諸條ニ掲ケタル規則ニ背戻スルモノハ貸渡期限内ト雖モ返附セシムルコトアルヘシ

第十四條　貸渡期限内ニ於テ土地家屋等返附セシムルトキハ達書到達ノ日ヨリ日數

三十日限リ私有物ヲ取拂フモノトス若シ其日限内ニ於テ取拂ハサルトキハ私有物ト雖トモ官ニ於テ處分シ私有ノ權利ヲ主張スルコトヲ許サス

但非常ノ際ハ本文ノ日限ニ拘ラス直ニ返附セシムルコトアルヘシ

第十五條　貸渡期限内ニ於テ返附セシムル時ト雖トモ手當金等一切支給セサルモノトス

但陸軍省ニ於テ使用ノ爲メ返附セシムルトキハ其月ノ借料金收納ヲ免除ス

第十六條　土地家屋等借用期限滿ルトキハ府縣廳ニ屆出テ府縣廳ニ於テハ圖面及ヒ明細書ニ照シテ檢査ヲ遂ケ不都合ナキトキハ其旨所管ノ工兵方面ニ通報スヘシ

第十七條　土地家屋等借用期限内事故アリテ返附セントスル者ハ其旨府縣廳ニ願出テ府縣廳ニ於テハ前條ノ手續ヲ爲シ其事由ヲ速ニ所管ノ工兵方面ニ通報スヘシ

第十八條　土地家屋等ヲ返附シタルトキハ其借用證書圖面及ヒ明細書ヲ下付スヘシ

借料金取調書

陸軍省御所轄何國何郡何町區何村何番地（或ハ何番地ノ内）

一地積幾何

此借料金滿一箇年幾何

一何造何家何棟合建坪幾何

此借料金滿一箇年幾何但外ニ金幾何修繕費見込
一土藏（或ハ何々）何棟合建坪幾何
此借料金　但
合計一箇年借料金高幾何但一箇月金幾何宛
一何々收獲高幾何
此拂下料幾何　但何程ニ付金幾何ノ見込
以上
右ハ近隣地（家）主ノ收納額ヲ基本トシテ借料金取調候也
何府縣何郡區何町村何番地居住（寄留）
拜借願人　姓　名　印
同　保證人　姓　名　印
年月日　戶長　姓　名　印
前書之通相違無之候也
年月日
當府（縣）管下何國何郡（區）何町（村）何番地陸軍省所轄地（或ハ所轄地ノ內）面積幾何（組家何棟）何
某借用願之通明治何年何月ヨリ同何年何月マテ滿何年間貸渡方取計諸事不都合無之

樣注意可致候依テ別紙本人拜借證書及ヒ明細書圖面及御送附候也
年月日　何府知事（何縣令）　姓　名　印
工兵第何方面提理姓名殿

△借用證書々式

△印紙　印

地所（家屋）拜借證書
陸軍省御所轄何國何郡（區）何町（村）何番地（或ハ何番地ノ內）
一面積幾何
此拜借料滿一箇年ニ付幾何
一建家何棟合建坪幾何
此拜借料滿一箇年ニ付幾何
右ハ何々ニ使用ノ爲メ御許可ヲ得テ明治何年何月ヨリ同何年何月マテ拜借仕候然ル
上ハ明治十八年十二月陸軍省達甲第五十二號御達陸軍省所轄土地家屋貸渡規則堅ク
相守可申且拜借料金ハ御指圖次第速ニ上納可仕候依テ別紙圖面及ヒ明細書相添拜借
證書如斯御坐候也

年月日　何府(縣)何郡區何町村何番地居住(寄留)
工兵第何方面提理姓名殿　拜借人　姓　名　印

前書之通相違無御坐候拜借人某ニ於テ陸軍省御規則ニ背戻ノ所業ハ勿論萬一借料金不納之節ハ私共引受總テ不都合無之樣取計可申候依テ保證如斯御坐候也

何府(縣)郡區何町村何番地居住
保證人　姓　名　印

前書之通相違無之候也

年月日　戸長　姓　名　印

△保證人ハ陸軍省所轄地近傍ニ居住シ其府縣在籍ノ者ニシテ證人タル資格ヲ有スル者二名以上ヲ要ス

△明細書々式

明細書

別紙圖面朱線內

一合面積幾何

內

地積幾何

池(沼)幾何

△石磚ノ類ハ箇數石壇土壘ノ如キハ横巾高サ長延間尺ヲ記載スヘシ

一何樹　目通何尺以上　幾本

△樹木ハ種類ヲ分チ各種類毎ニ記載スヘシ幹數記載ナシ難キ苗木又ハ桑茶竹藪ノ如キハ株數或ハ地坪ヲ記載スヘシ

何造家別紙圖面之通桁行幾間梁間幾間幾棟

一合建坪幾何

內

何々家建坪幾何

但△圖面ニ記シ難キ附屬品アルモノハ廉限リ此所ニ記スヘシ　附屬ス

何々幾何

△同種類ノ建家ニシテ附屬品モ亦同一ナルモノハ圖面ニ番號ヲ附シ何號ヨリ何號ニ至ル幾棟ト記載スルモ妨ケナシ

一何柵(何垣)幾間

一井戸　幾箇

但　△家形附幾箇敷石幾坪附幾箇ト記スヘシ

△右ノ外門扉其他ノ附屬モノトモ廉限リ記載スヘシ

右之通相違無御坐候也

年月日

拜借人　姓名印

保證人　姓名印

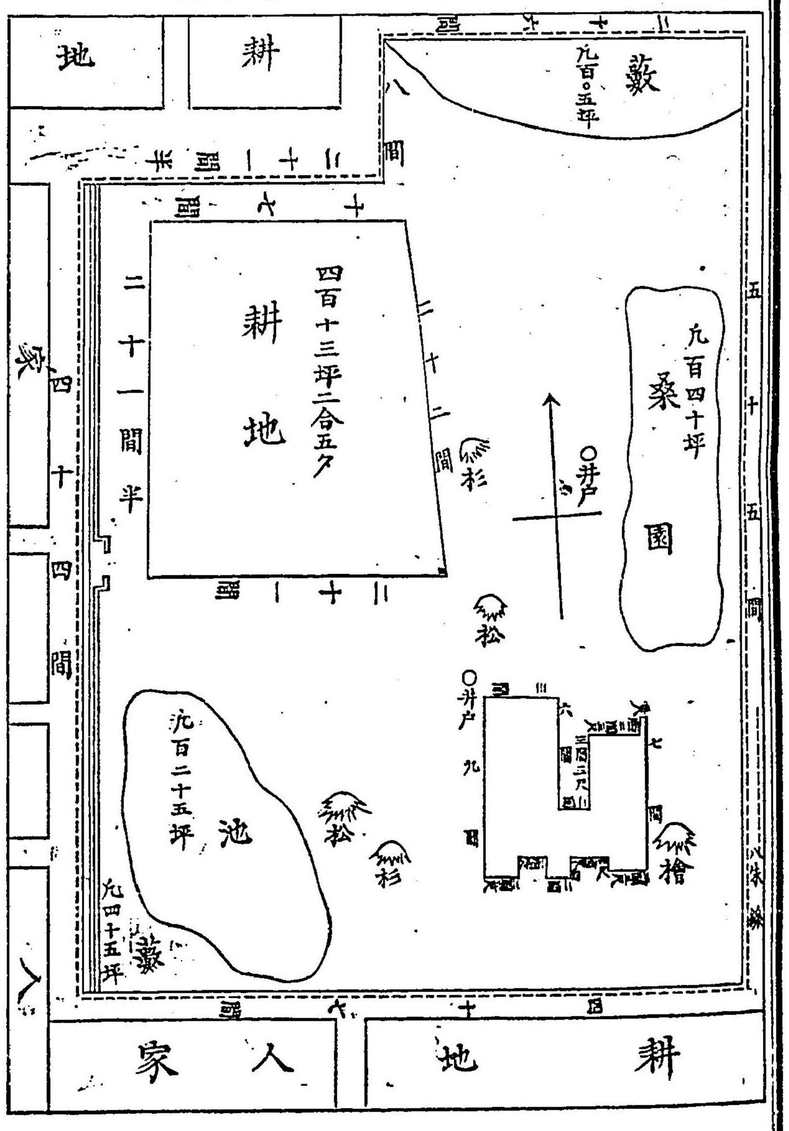
△借用地製圖式

陸軍省御所轄何國何郡何區何町何村何番地ノ圖

製圖凡例

一借用地ノ區域ハ朱線ヲ畫シ各直線ニ間數ヲ記載シ且方位ヲ示スヘシ

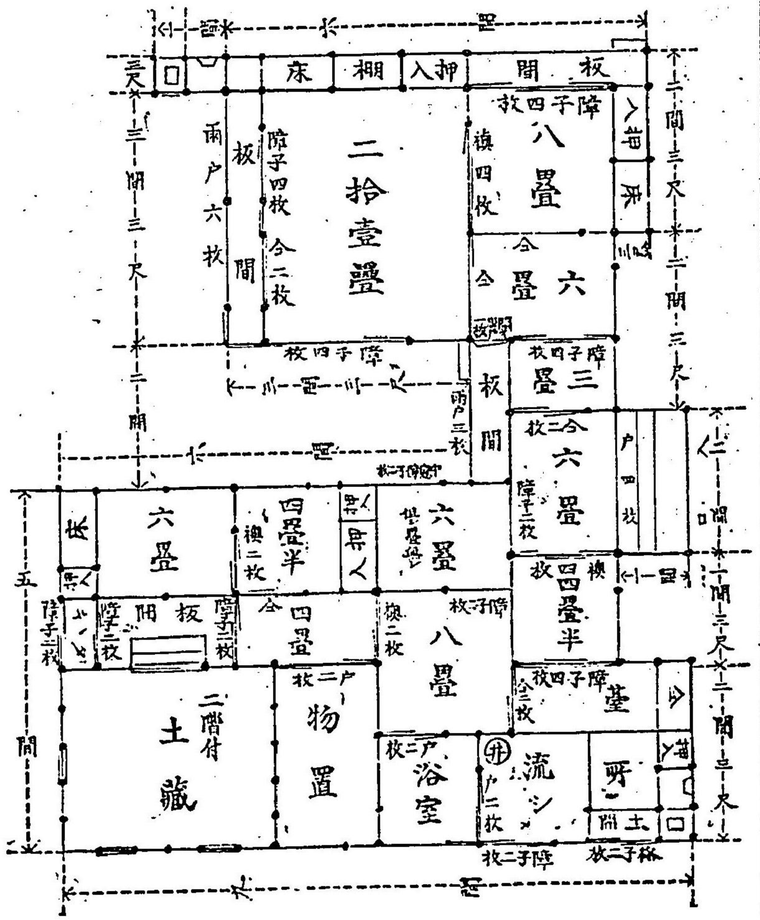
一樹木石壇土壘ノ如キハ其位置ヲ示シ耕地桑田茶園畝池等ハ其敷地ニ各著色ヲ爲スヘシ



△用家屋製圖式

陸軍省御所轄何國何區郡何町村何番地建家平面ノ圖

……ハ朱線



●内閣ニテ土地收用法ニ依リ起業スル工事ヲ認定シ官報ヲ以テ其起業地公告ノトキ收用スヘキ土地ノ細目ヲ示サヽルモノ公告方

明治二十二年十二月内務省訓令第四十二號各府縣地收用法ニ於テ起業地ニ關シ官報ヲ以テ認定シタル工事ニ起リ收用スヘキ土地ノ細目ヲ示サヽルモノ公告方ニ關スル件

北海道廳

●土地收用法制定

明治二十二年七月法律第十九號

朕土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

第一章　總則

第一條　公共ノ利益ノ爲メノ工事ニシテ必要アルトキハ此法律ノ定ムル所ニ依リ損失ヲ補償シテ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

土地ノ使用ハ三年以内ニ限ル但一年以上ニ亘リ又ハ使用ノ爲メ土地ノ形質ヲ變更スルトキ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

第二條　左ノ種類ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ニシテ必要ナルコトヲ認定シタル後此法律ヲ適用スルコトヲ得但國防上ノ工事ニ關スル認定ハ此限ニアラス

一　國防其他兵事ニ要スル土地

一　政府、府縣郡市町村及公共組合ノ直接ノ公用ニ供スル土地

三　官立公立ノ學校病院其他學藝及慈善ノ用ニ供スル土地

四　鐵道電信航路標識及測候所ノ建設用地

用スヘキ土地ノ細目ヲ示サヽルモノハ各其管内ニ係ル郡市町村名及字番號地目ヲ公告スヘシ

五　河川溝渠ノ掘鑿道路橋梁埠頭水道及下水ノ築造用地

六　防火及水害豫防並檢疫所火葬場其他公衆ノ衛生ニ要スル土地

第三條　前條ノ工事ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用セントスルノ必要アルトキハ起業者ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ地方長官ニ差出スヘシ地方長官ハ之ヲ審査シ內務大臣ニ具申シ內務大臣ハ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

前項ノ工事政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ハ工事計畫書並圖面ヲ製シ內務大臣ト協議シ之ヲ閣議ニ提出スヘシ

第四條　內閣ニ於テ工事ヲ認定シタルトキハ官報ヲ以テ起業者及起業地並工事ノ種類ヲ公告スヘシ

國防上ノ工事ニ關シテハ主務大臣ヨリ地方長官ニ通知シ地方長官ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二章　土地收用ノ手續

第五條　工事ノ認定ヲ得タル後起業者ハ工事準備ノ爲メ其土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

第六條　前條ノ場合ニ於テハ起業者ヨリ工事準備ノ爲メ立入ルヘキ場所及期日ヲ豫メ其地ノ市町村長及各所有者ニ通知スヘシ但準備ノ爲メニ生スル所ノ損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ市町村長一名ノ鑑定人ヲ選ヒ立會ハシメ其金額ヲ定ムヘシ

第七條　工事ノ認定前起業者計畫準備ノ爲メ其土地ニ立入リ測量又ハ檢査ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ豫メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但政府ノ起業ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ豫メ地方長官ニ通知スヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ爲シ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ告示シ又ハ其土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

起業者本條第一項ノ測量又ハ檢査ヲ爲ストキハ其場所及期日ヲ各所有者ニ通知スヘシ但損失ヲ補償スルトキハ前條ノ例ニ依ル

第八條　工事ノ仕樣及收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域確定シタルトキハ起業者ハ其仕樣書並圖面及損失補償金額見積書ヲ所有者及關係人ニ示シ協議ヲ遂クヘシ但國防上ノ用地ニ關シテハ其區域及損失補償金額見積書ヲ示シ仕樣書及圖面ヲ添フルヲ要セス

若シ協議調ハサルトキハ起業者ハ各市町村別ニ左ノ事項ヲ記載シ前項ニ掲ケタル書類ト共ニ地方長官ニ差出シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ但政府ノ起業

ニ係ルトキハ主務大臣ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムヘシ

一　收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號地目並隣地番號地目

二　收用又ハ使用スヘキ土地ノ段別若シ建物木石作物等アルトキハ其建坪數量但土地又ハ建物ニ分割ヲ來ス場合ニ於テハ其全部ノ段別建坪ヲ併セ記スヘシ

三　土地臺帳登記簿ニ依テ知リ得ヘキ所有者及關係人ノ氏名

四　收用又ハ使用ノ時期

五　損失補償金額並其內譯但收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル建物木石作物等ノ移轉ヲ請求スルトキハ其移轉料

第九條　地方長官前條ノ書類ヲ受取リタルトキハ之ヲ市町村長ニ下付スヘシ市町村長ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備置キ十四日間公衆ノ縱覽ニ供スル旨ヲ公告スヘシ且起業者ナシテ特ニ所有者及關係人ニ其旨ヲ通知セシムヘシ

前項ノ公告ニハ土地收用審査委員會ヲ開クヘキ場所、期日、所有者及關係人ヨリ意見書ヲ差出スヘキ場所ヲ記載スヘシ

第十條　收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人ハ前條公告ノ日ヨリ十四日以內ニ意見書ヲ差出スヘシ若シ其期限ヲ過ルトキハ意見ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十一條　地方長官ハ前條公告ノ日ヨリ十四日間ヲ過キタル後土地收用審査委員會ヲ開クヘシ

土地收用審査委員會ハ仕樣其他ノ手續ヲ審査シ所有者及關係人ヨリ差出シタル意見書ノ當否、土地收用又ハ使用ノ區域收用又ハ使用ノ時期並補償ノ金額ヲ裁決スヘシ

補償ノ金額ヲ裁決スルトキハ先ツ二名以上ノ鑑定人ヲ選ヒ其見積書ノ當否ヲ調査セシムヘシ

第十二條　土地收用審査委員會ハ七日以內ニ裁決ヲ終リ地方長官ニ之ヲ報告スヘシ

但其期限內ニ裁決スルコトヲ得サル事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ經テ其期限ヲ延スコトヲ得

第十三條　地方長官土地收用審査委員會ノ裁決ノ報告ヲ受ケタルトキハ市町村長ヲシテ之ヲ起業者及所有者並關係人ニ達セシムヘシ

第十四條　地方長官ヨリ裁決ノ達ヲ受ケタルトキハ起業者ハ補償金ヲ所有者及關係人ニ拂渡シ又ハ地方廳ニ預置キ土地ヲ受取ルヘシ但工事仕樣ニ關スル裁決ニ服セス內務大臣ニ訴願シタル場合ハ此限ニアラス

第十五條　土地收用審査委員會ノ工事仕樣ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ

受ケタルヨリ七日以内ニ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得内務大臣ノ裁決ヲ終ルマテハ起業者其工事ニ著手スルコトヲ得ス但内務大臣ノ裁決ハ之ヲ終審トス

補償金額ニ關スル裁決ニ服セサル者ハ裁決ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得此場合ニ於テハ起業者其工事ノ著手ヲ猶豫セサルコトヲ得

第十六條　起業者土地ヲ受取リタルトキハ其登記ト俱ニ該土地ハ第三十五條ノ場合ニ於テ舊所有者原價ヲ以テ買戻ノ權ヲ有スル旨ノ記入ヲ求ムヘシ

第三章　損失補償

第十七條　收用又ハ使用スヘキ土地其他ノ補償金額ハ所有者及關係人ヲシテ相當ノ價値ヲ得セシムルヲ目的トシテ之ヲ定ムヘシ

第十八條　收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シタル場合ニ於テ收用地ノ補償價格殘地ノ價格ヨリ高キ事實アルカ又ハ殘地ノ價格ヲ減スヘキ事實アルトキハ併セテ其損失ヲ補償スヘシ

土地ノ一部ヲ使用スルカ爲メ殘地ノ損失ヲ來ストキハ其補償ニ付テモ亦前項ニ同シ

第十九條　收用又ハ使用ノ爲メ所有者及關係人ニ於テ新ニ道路溝渠橋梁墻柵及井等ヲ設ケサルヲ得サル場合ニ於テハ其費用ヲ補償スヘシ

第二十條　收用ノ爲メ土地ノ分割ヲ來シ所有者ニ於テ從來該地ヲ使用セル目的ニ供スルコトヲ得サル場合ニ於テハ其土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

收用ノ爲メ建物ノ分割ヲ來ス場合ニ於テハ所有者其建物ノ全部竝建物ニ屬スル土地全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條　收用又ハ使用ノ土地ニ附屬スル建物木石等ハ併セテ之ヲ收用又ハ使用シ作物ハ之ヲ收用スヘシ但所有者ニ於テ其移轉ヲ請求スルトキハ移轉料ヲ補償スヘシ

第二十二條　所有者補償金額ヲ增サンカ爲メ故ラニ建物雜作ヲ修補シ又ハ木石作物等ヲ增加シタル實蹟アルトキハ之ヲ補償金額中ニ算入セス所有者ヲシテ自費ヲ以テ其土地ノ收用又ハ使用ノ日マテニ之ヲ取拂ハシムヘシ

第二十三條　土地ト建物木石作物等ト其所有者ヲ異ニスル場合又ハ借地人借家人小作人等其土地ニ對シ特別ノ關係ヲ有スル者アル場合ニ於テハ其收用又ハ使用ニ因テ生スル損失ニシテ金額ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限リ各別ニ之ヲ補償スヘシ

書入又ハ質入トナリタル土地建物ノ補償金ハ地方廳ニ預置カシメ所有者及債主連署シテ其下渡ヲ請求スルヲ俟テ拂渡スヘシ

第二十四條　補償金ノ受取人之ヲ受取ルコトヲ拒ムトキハ起業者ハ之ヲ地方廳ニ預置クヘシ

第二十五條　工事ノ仕樣竝補償金額ノ決定ノ後起業者其土地ヲ收用又ハ使用セサル以前其工事ヲ廢スル場合ニ於テ所有者及關係人之カ爲メニ損失ヲ被リタルトキハ其補償金ヲ請求スルコトヲ得收用又ハ使用ノ時期ヲ過キテ仍ホ土地ヲ收用又ハ使用セサルトキモ亦同シ

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ第六條第二項ノ例ニ依ル

第二十六條　收用又ハ使用ノ補償金額ノ決定ニ漏レタル損失ヲ發見シタルトキハ所有者及關係人ハ其收用又ハ使用ノ日ヨリ三箇年以內ニ其補償金ヲ請求スルコトヲ得

若シ補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ請フヘシ

第二十七條　天災時變ニ際シ急施ヲ要スル公共ノ利益ノ爲メノ工事ハ起業者ノ申立ニ依リ郡市長之ヲ認定シ直ニ土地ヲ收用又ハ使用セシムルコトヲ得但補償ニ關スル手續ハ執行後此法律ニ依リ之ヲ行フヘシ

第二十八條　國防又ハ道路堤防鐵道及埠頭ノ工事ニ供スル土石砂礫ニシテ宅地外ニ在テ所有者使用セサルモノハ此法律ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得

第四章　土地收用審査委員

第二十九條　土地收用審査委員ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充テ地方長官ヲ會長トス地方長官故障アルトキハ上席高等官之ヲ代理ス

工事ノ仕樣ヲ裁決スル場合ニ於テハ其工事ノ狀況ニ依リ專門技術家ヲ委員中ニ加フヘシ

第三十條　起業者及收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者及關係人竝其父子兄弟ハ土地收用審査委員會ノ會議ニ與カルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ府縣會常置委員ニ缺員ヲ生スルトキハ補缺員ノ中ヲ以テ補充スヘシ

第三十一條　土地收用審査委員會ノ選定スル鑑定人竝第六條ノ鑑定人ハ其市町村ニ於テ土地ヲ所有シ且前條第一項ニ觸レサル者ニ限ル

第三十二條　土地收用審査委員會ハ起業者竝所有者及關係人ヲ呼出スコトヲ得

第三十三條　土地收用審査委員會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

會議ハ多數ニ依テ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ會長之ヲ決ス

第五章　雜則

第三十四條　収用又ハ使用ノ手續ニ關スル費用土地收用審査委員會並第六條ニ於テ要スル鑑定人ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス但所有者及關係人ノ書類差出ニ關スル費用ハ總テ其自辨トス

第三十五條　起業者工事ヲ廢シ又ハ其他ノ事故ニ由リ收用シタル土地ノ全部若クハ一部不用ニ歸シタルトキハ起業者ハ直ニ其旨ヲ舊所有者ニ通知スヘシ若シ其所在不分明ナルトキハ官報及其地方ノ新聞紙ヲ以テ三回以上公告スヘシ

前項ノ土地ハ舊所有者原價ヲ以テ之ヲ買戻スコトヲ得

第三十六條　前條ノ通知後二箇月以内又ハ公告後六箇月以内ニ舊所有者何等ノ申込ヲ爲サヽルトキハ買戻ノ權ヲ失フモノトス

第三十七條　起業者若シ第三十五條ノ通知又ハ公告ヲ爲サスシテ他人ニ土地ヲ賣却讓與シタルトキハ舊所有者ハ現所有者ニ就テ原價ヲ以テ其土地ヲ買戻スコトヲ得

第三十八條　國防其他兵事上工事ノ急施ヲ要スル場合ニ於テ土地ヲ收用又ハ使用スルハ特ニ定メタル法律ノ條規ニ依ル

第三十九條　北海道沖繩縣ニ於テハ土地收用審査委員會ノ爲スヘキ事務ハ北海道廳長官沖繩縣知事之ヲ行フ

第四十條　市制町村制ノ施行ニ至ラサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ事務ハ區戸長之ヲ行フ

島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ爲スヘキ事務ハ島司之ヲ行フ

第四十一條　明治八年太政官第百三十三號達公用土地買上規則ハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●土地收用協議會規則

明治二十三年七月
法律第五十四號

第一條　土地收用協議會規則

土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項ニ基キ其工事ノ仕樣及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條　第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者（官ノ起業ニ係ルトキハ其主任官吏）及所有者並關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クトモ開會十日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕樣ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關

シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞クセノトス

正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サヽル者アルトキハ工事ノ仕樣及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條　出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者並關係人ニ讀聞セ起業者及所有者並關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條　協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者並關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條　出張官吏及鑑定人ノ旅費日當並協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

●官有地特別處分規則

明治二十三年七月
勅令第百三十五號

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地特別處分規則

●官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣貸渡方

本年五月十三日勅令第百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ北海道廳第三部第七課第三十八號ノ二ノ規定ニ依リ內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

第一條　內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一　直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二　不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價額二百圓以內ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以內ニシテ貸渡期限五箇年以內ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

三　鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路冷溫泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四　會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條　直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條　府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財產管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ

其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條　北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

●官有地取扱規則

明治二十三年十一月
勅令第二百七十六號

朕官有地取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有地取扱規則

第一條　官有地ノ賣買讓與交換及貸付ハ內務大臣之ヲ處理ス

第二條　官有地ニ關スル願書ノ指令契約ノ締結登記ノ請求收入ノ徵收及收納並訴訟ハ內務大臣地方長官ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第三條　各廳ニ於テ官有地ヲ使用セントスルトキハ內務大臣ニ請求スヘシ

第四條　各廳ノ使用地不用ニ歸シタルトキハ內務大臣ニ還付スヘシ

第五條　甲乙兩廳ノ間ニ於テ官有地ノ使用ヲ移サントスルトキハ內務大臣其手續ヲ爲スヘシ

第六條　各廳ノ所用ニ供スル爲メ民有地ヲ寄付セントスルモノアルトキハ內務大臣受納ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　官有地ヲ開墾セントスルモノアルトキハ無料ニテ之ヲ貸付スヘシ但開墾成功ノ後事業者ニ於テ該地ヲ拂下ケントスルトキハ豫メ契約ニ依テ其代價ヲ定メ置クヘシ

第八條　官有地ト民有地ノ交換ハ兩地ノ坪數及價格稍相均シキモノニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　借地人ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ其地ヲ當初借用ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス

借地人前項ノ規定ニ違反スルトキハ地方長官ハ其使用ヨリ生シタル損害ヲ賠償セシメ返地ヲ命スルコトヲ得

第十條　借地人官ノ許可ヲ得テ土地ノ原形ヲ變シタルトキハ借地滿期ニ至リ自費ヲ以テ之ヲ原形ニ復シ返納スヘシ但特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第十一條　官ニ屬スル公有地及公有水面ハ其公用ヲ廢シタルニアラサレハ賣拂讓與交換又ハ貸付スルコトヲ得ス但公衆ノ妨害トナラサル限リハ公用ニ供シタル儘有料又ハ無料ニテ特ニ其使用ヲ許スコトヲ得

第十二條　官ニ屬スル公有水面ヲ埋立テ民有地ト爲サントスルモノアルトキハ公衆ノ妨害トナラサル部分ニ限リ之ヲ許スコトヲ得

第十三條　官ニ屬スル私有水面ノ賣拂讓與交換貸付及使用ハ本令ニ定ムル土地ノ規定ニ準據スヘシ

第十四條　隨意ノ契約ニ依リ官ニ屬スル土地又ハ水面ノ賣拂讓與交換又ハ有料貸付有料使用ヲ爲サントスルトキハ地方長官其評價ヲ爲サシムヘシ

既ニ貸付シ又ハ使用セシメタル土地又ハ水面ヲ引續キ貸付シ又ハ使用セシムル場合ニ於テモ亦前項ヲ準用ス

第十五條　官有地ニ關スル事項ニシテ本令ニ規定セサルモノハ官有財產管理規則ニ依ル。

第十六條　本令ハ勅令ヲ以テ特ニ規定シタルモノ及官有森林原野ニ適用セス

第十七條　官有地臺帳ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

●北海道官有未開ノ土地拂下貸下方　明治二十三年三月　勅令第五十五號

朕北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道官有未開ノ土地拂下貸下ニ關シテハ從前ノ規則ニ依ラシノ會計法第二十四條ニ規定スル競爭ノ方法ヲ用ヒス

●北海道土地拂下規則　明治十九年六月　閣令第十六號

北海道土地拂下規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

北海道土地拂下規則

第一條　北海道官有未開ノ土地ハ本規則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ

第二條　土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第三條　土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數幷事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ

北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徵收セス

第四條　貸下期限ハ十年以內トシ土地ノ景況ト事業ノ難易トニ依リ之ヲ定ム但牧場ハ貸下年期ノ滿限ニ際シ更ニ貸下延期ヲ必要トスルトキハ其願ニ依テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條　耕宅地ハ毎年其配當坪數ノ成功ヲ點檢シ又海產乾場及牧場ハ隨時其事業ノ

◎北海道土地拂下規則第十條改正　明治十九年（八月）閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條左ノ通改正ス　明治二十二年六月閣令第二十號

第十條　素地ノ代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後拂下ヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

現況ヲ點檢スヘシ

第六條　耕宅地ハ其年配當ノ事業成ラサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ總テ返納セシメ海產乾場及牧場ハ第三條願出書ノ如ク成ラサルトキハ悉皆之ヲ返納セシムヘシ

天災地變其他避クヘカラサル事故アリテ成功セサルトキハ北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ

第七條　貸下地ヲ返納セシメタルトキハ其地內ノ樹木ニシテ既ニ伐採シタルモノアレハ相當ノ樹木代價ヲ納メシムヘシ

第八條　貸下地ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ其期限中ト雖モ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用ハ之ヲ辨償スルモノトス

第九條　貸下地ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ不得已事故アリテ讓渡サントスルトキハ讓渡人讓受人連署ノ上北海道廳ニ願出テ其指揮ヲ請フヘシ但讓受ケタル土地ノ貸下期限ハ更ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十條　素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後之ヲ拂下ケ地券ヲ下付スヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

◎北海道土地拂下規則第十二條廢止　明治二十三年十二月閣令第八號北海道土地拂下規則第十二條ヲ廢ス

第十一條　本規則施行手續ハ北海道廳長官之ヲ定ム

附則

第十二條　明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則ニ依リ土地ノ拂下ヲ受ケ或ハ拂下人ヨリ買受ケタル土地ニシテ其事業未タ成ラサルモノハ本規則第三條第一項ニ準シ明治二十年ヨリ向フ十年以內ニ成功ノ目的ヲ以テ方法書取調本年十二月迄ニ北海道廳ヘ申出ヘシ若シ其申出ヲ怠リ又ハ申出ノ後天災地變其他避クヘカラサル事故アルニ非スシテ該方法書ノ如ク成功セサルトキハ其成功シタル土地ヲ除キ其他ハ當初ノ拂下代價ヲ以テ之ヲ買戻スヘシ

第十三條　明治五年第三百四號公布北海道土地賣貸規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

（明治十八年太政官達第七十號ヲ以テ工部省ヲ廢シ鑛山ノ事務ヲ農商務省ニ屬ス）

◎第二十九類

○鑛山

●日本坑法 明治六年七月布告第二百五十九號

今般鑛山其他諸坑業ノ規則別冊ノ通改定候ニ付テハ凡坑物ニ關係ノ事件ハ工部省ニ於テ總管セシメ候條自今金屬其外諸坑物營業ノ儀都テ同省ヘ可申立候此旨布告候事

（別冊）

日本坑法

第一章　坑物

第一　正理ヲ以テ論スルトキハ凡テ無機物タル者ハ（生活ノ機ナキ諸物品）都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質二類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質タリ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ物質ト合化シテ出ルモノハ右第一類ニ屬ス燃質物山鹽燐酸石灰美石及玉璞ノ類ハ右第二類ニ屬ス（本條掲クル所ノ有鑛質無鑛質トモ總テ之ヲ坑物ト稱ス坑出坑業坑區坑産等皆之ニ倣ヘ）

第二　前ニ掲記セシ物類凡日本國中ニ於テ發見スル者ハ都テ日本政府ノ所有ニシテ獨リ政府ノミ之ヲ採用スル分義アリ

第三　築石土砂粘土其他建築耕作所用ノ諸物品ハ都テ地主タル者ノ所有トスヘシ

第四　日本ノ民籍タル者ニ非サレハ試堀ヲ作シ坑區ヲ借リ坑物ヲ採製スル事業ノ本主或ハ組合人ト成ルコトヲ得ス（坑産ノ製合及損益ニ關係スル所ノモノハ都テ組合トス）若シ之ヲ犯ス者ハ其業ニ屬スル所有物ヲ官ニ沒入シテ其業ヲ禁止スヘシ

第二章　試堀

第五　試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ試堀ヲ行フ爲ニ必要ノ地面他人ニ屬セハ其償金ヲ對談處分ス可シ地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ツル者ハ衆ニ超テ許可ヲ得ヘキ分義アリトス然レトモ自ラ試堀ノ資本ナクシテ他人ノ擧ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪ラハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其地ヲ買上クヘシ

第六　試堀ニテ坑物發見スルトキハ直チニ見本ヲ添ヘテ鑛山寮ニ屆出ツヘシ且試堀中ハ一月七月兩度毎ニ前六ケ月間ノ行業日數及ヒ工數幷ニ產鑛量ヲ開報スヘシ

凡ソ產鑛ハ借區劵ヲ得ル後ニ非サレハ恣ニ賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒收スヘシ

第七　試堀ハ都テ一箇年間ヲ以テ期限トス若延期ヲ願出ルニ實ニ未タ開坑ヲ決スルコトヲ得サル事理判然タラハ之ヲ許可スルコト有ル可シ

第八　試堀人廢業スルトキハ第二十七款廢坑則ノ如クスヘシ

（明治十五年第三十八號布告ヲ以テ但書ヲ追加セラル）

此時ニ產鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却シ第三十一款ノ坑物稅ヲ納ムヘシ試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於テハ坑物稅ヲ免スルコト有ル可シ

第三章　借區開坑

第九　開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ヘシ坑區ノ廣狹ハ其適實ナル起業ノ目途ニ應シテコレヲ得セシムヘシ

但石炭坑ノ借區ハ一萬坪以上ニ限ルヘシ

有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ

凡ソ借區開坑ハ鑛山寮ニ願出ヘシ此願書ニ其得ント欲スル坑區ノ測量圖ヲ添テ出ス可シ

試堀ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主有リト雖トモ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區劵ヲ得ルノ後二十二款ノ如クナルヘシ

第十　願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ境界ヲ識別スヘシ巡回官員歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ借區劵ヲ附與スヘシ

第十一　凡ソ借區ハ通常十五箇年間ヲ以テ定期トス之ヲ終ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スヘシ

第四章　通洞

第十二　通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿ツヲ通常トス別ス探鑛疏水運輸等ノ爲メ地底ヲ横截シ一道ノ大坑ヲ穿ツヲ通洞ト云フ　我カ借區中ニ非スト雖トモ之ヲ企ツルコトヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細圖ヲ添テ鑛山寮ヘ出スヘシ若シ其通洞他人ノ借區ニ亘渉スヘキハ豫メ其借區人ニモ報知スヘシ

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スヘカラス是ヨリ小ナルハ通洞トセス

第十三　願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許可スヘキハ工部全權ノ証印ヲ以テ免狀ヲ付與スヘシ免狀ヲ得ルノ後若シ目論見圖ニ違ヒ方向ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セントスルトキハ更ニ鑛山寮ヘ願出許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

第十四　借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クヘキ資本有ニ非サレハ我區中タリト雖トモ他人ノ擧ヲ拒ムヘカラス

通洞保全ノ爲メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ一間半以内ニ堀入ルヘカラス然レトモ其跡ニ自己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無カラシムル者ハ此限ニアラス是ハ坑物ヲ得シカ爲ニ一旦土石ヲ堀出ストキノ如キ是レ也

第十五　通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルコトアラハ通洞發起人ニ其謝金ヲ出スヘシ若シ之ニ就テ對談穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ處斷スヘシ

通洞ヲ開ク者ハ借區人未定ノ所ニ於テハ通洞ノ周圍内ヨリ出ルタケノ鑛石ヲ取ルコトヲ得ヘシ他人ノ借區中ニ於テハ此坑石ノ一半ヲ借區人ニ歸スヘ

第五章　坑業

第十六　都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ爲ニ存スヘキ所ノ外ハ成ル丈坑利ヲ還スコトナク取出スヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七　試堀開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舍屋鐵道河流及道路ノ如キ其害ヲ受クヘキ場所ハ度ヲ計テ之ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ

凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯ス者有レハ城堡ハ其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル二倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八　凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クヘシ

如此類ノ借區税ハ第三十一條ニ照準シ高價ナル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九　開坑人ハ歳々一月七月兩度毎ニ前六箇月間ニ產出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日數工數ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知スヘシ

有鑛質ハ坑產量並製出量且製出セシ混淆物二種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試驗ノ割合ヲモ具記シテ賣出高以下總テ前ノ如クスヘシ右數量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五拾圓トス若シ賣出高並ニ代價ヲ減書スルモノハ其減書セシ高ノ三倍ヲ徵收スヘシ（明治八年第百八十三號布告ヲ以テ一倍ノ罰呼ヲ廢シテ二倍ト改正セラル）

可シ

第二十　通例開坑又ハ廢礦採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ壯健ナル一夫三百日ヲ以テ成セル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク妨碍判然タルニ有スンハ其業ヲ禁止ス可シ

第二十一　坑業人ハ互ニ隣坑ノ風通ヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路ヲ通センコトヲ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ルヘカラス若相對ヲ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ所斷ス可シ

右堀通シニ付テ出ル鑛石ハ其所ノ借區人ニ屬スヘシ

第二十二　凡借區人ハ區上ニ於テ藏庫詰所作事場洗礦所鎔鑛所通路等其他坑業ニ必要ナル地面ハ地主タル者ニ豫メ償金ヲ辨ス可シ若シ異論決セスンハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地ヲ買取ル可シ

第二十三　總テ坑區ヨリ隣區ニ患害損傷ヲ被ラシムルトキハ之ヲ償フヘシ若シ償金決セスンハ鑛山寮ヨリ裁決スヘシ

第二十四　凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ前以テ双方ヨリ鑛山寮ニ願出テ許可ヲ請フ可シ若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止ス可シ

第二十五　凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル負債アリト雖トモ總テ其坑山ニハ關係セサル者トス此時ニ當テ地中ノ結構ハ坑山ニ屬シテ政府ノ有タル可シ

地上ノ營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖トモ其趾ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスヘシ

第二十六　坑業人ハ其坑山地方ノ住民同樣トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可シ

第六章　廢業

第二十七　坑業ヲ廢セント欲スル者ハ竪坑ノ口ヲ掩ヒ又柵圍ヒス可シ鑛山寮ヨリ其竪坑ヲ當然ニ堅固ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査スヘシ若シ疎漏アラハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治ス可キ費額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十八　鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハス之カ爲ニ坑中廢沒スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章　製鑛所建築

第二十九　凡ソ開坑人鑛山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セン爲ニ建築スヘキモノアラハ先鑛山寮ニ許可ヲ請フ可シ

第三十　已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製（荒鋼ヲ丁鋼棹鋼ニ作リ山吹スル金ヲ純金ニ製スル類ヲ云フ）職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ六箇月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山寮ニ開報スヘシ

（明治八年第百八十三號布告ヲ以テ第二十七項中一倍ノ稱呼ヲ二倍ト改正セラル）

（明治十四年第四十九號布告ヲ以テ第三十一項中前ヶ年分ヲ鑛山寮ヘ納ムヘシトアルヲ其年一ケ年分ヲ納スヘシト改メ但以下ヲ加ヘラル）

（明治十四年第四十九號布告ヲ以テ第三十一項ノ第三ヲ改正セラル）

第八章　稅納

第三十一　鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積五百坪毎ニ一箇年金壹圓ツヽ借區稅トシテ毎年一月ニ其年一ケ年分ヲ前納スヘシ（借區稅ハ地租ニ關係セス）鐵及無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑區ハ面五百坪ニ付前條ノ半高ヲ納ムヘシ即金五拾錢トス廢鑛ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額ヲ納ム可シ但怠納者ハ借區券ヲ取揚クヘシ開坑區面五百坪廢鑛區面千坪トニ足サルモノハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムヘシ」

借區初年ノ區稅ハ月割ヲ以テ借區券下付ノ節前納スヘシ

前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及ヒ諸坑物ニ就テ代價百分ノ三ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅トシテ毎歲一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ム可シ

但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨリ命スヘシ

第三十二　試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルトキ其業ニ屬スル所ノ運移スヘキモノ殘ラス鑛山寮ヨリ入札拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

第三十三　凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失有ル者ハ輕重ニ隨テ罰金ヲ命スヘシ若シ事業疎略ニシテ人命ヲ失ハヽ國律ヲ以テ論處ス可シ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ施行スヘシ從前ノ法則及舊習等若シ此法ニ矛盾スル者ハ都テ廢停タルヘシ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ擧行スル者西洋ノ學術及工作ヲ用ヒンカ爲メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ雇入ルヽカ如キハ我坑產損益及ヒ所有物ニ關係スル事無キニ因テ鑛法第四款ノ禁ニ觸レス然レトモ之ヲ雇入ルヽ以前其職業給料及年限ヲ分明ニ記載シ其案紙ヲ鑛山寮ヘ送呈シテ結約ノ許可ヲ可請候事

（書類樣式略ス）

●日本坑法中改正　明治二十三年七月　法律第五十五號

朕日本坑法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本坑法中左ノ通改正ス

第二章

第五　試堀ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ試堀願書ニ試堀地ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

試堀ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル若シ試堀セント欲スル地ノ全部ヲ所有スル者ノ出願ト同地ニ係ル他人ノ出願ト同時ナルトキハ其土地所有者ニ許可スル者トス

第三章

第九　借區ノ許可ヲ得ントヽ欲スル者ハ借區願書ニ坑區圖ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

借區願書及坑區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ坑區圖ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サヽルトキハ其出願ヲ無効トス

借區ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル

出願ノ試堀地ト出願ノ坑區ト互ニ牴觸スルトキハ試堀出願ヲ無効トス

坑區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトス其一坑區ノ面積ハ石炭ハ壹萬坪以上其他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第十　借區出願人ハ其出願地ニ於テ採堀セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ其證明ヲナス能ハサルトキハ其出願ヲ無効トス

農商務大臣鑛物ノ存在ヲ認メス又ハ試堀若クハ採製ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ其出願ヲ許可セス

試堀若クハ採製ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

試堀人又ハ借區人前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

試堀人又ハ借區人ノ得タル試堀若クハ借區ノ許可詐僞又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ發見シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ指令ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五章

第二十二　試堀又ハ借區ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲損害ヲ生シタルトキハ之ヲ賠償スヘシ

左ノ場合ニ於テ試堀人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トスルトキハ其土地ノ所有者又ハ關係人ト協議シ其承諾ヲ受クヘシ若シ協議調ハサルトキハ農商務大臣ノ裁定ヲ請フヘシ

一　坑口ヲ開穿スル爲

一　坑物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一　坑道、道路、鐵道馬車、鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一　坑業上必要ノ製錬場及建物ヲ建設スル爲

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ其貸渡ヲ拒ムコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ハ貸渡ヲ受クヘキ土地ニ對シ土地所有者及關係人ニ協議ヲ遂ケシ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

試掘人又ハ借區人三箇年以上土地ヲ使用スル目的アルカ又ハ使用ノ爲土地ノ形質ヲ變更スルカ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

此他土地ノ使用及收用ニ關シテハ土地收用法第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第一項第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ例ニ依ル

●日本坑法中改正實施前接受ノ鑛業ニ關スル諸願書進達手續

明治二十三年七月
農商務省訓令第四十號

府縣

地方廳郡役所村長役場（若クハ戸長役場）ニ於テ法律第五十五號實施前ニ接受シタル鑛業ニ關スル諸願書ハ從前ノ手續ニ依リ當省ヘ進達スヘシ

●日本坑法ニ依リ試掘、借區ノ取消及土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續

明治二十三年十一月
農商務省令第十九號

日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘若クハ借區ノ取消ヲ請求スル者及第二十二款第二項ニ依リ土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續左ノ通相定ム

第一條　日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若クハ借區許可ノ取消ヲ請求セントト欲スル者ハ詳ニ其ノ理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第二條　第二十二款第二項ニヨリ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用セントスルトキ其ノ所有者又ハ關係人ト協議調ハサル場合ニ於テハ裁定請求書ニ其ノ土地ヲ必要トスル理由書建設スヘキ工事ノ設計書詳細ノ實測圖面其ノ他關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第三條　地方長官ニ於テ第一條又ハ第二條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ副書ヲ對手人ニ送附スヘシ

第四條　坑業人土地所有者又ハ關係人第三條ニ依リ請求書ヲ受取リタルトキハ其到達ノ日ヨリ十五日以内ニ農商務大臣宛ニテ辯明書若クハ理由書ヲ作リ其請求書ト共ニ地方長官ニ差出スヘシ若シ此期限ヲ過クルトキハ意見ヲ申立ルコトヲ得ス

第五條　地方長官ニ於テ第四條ノ辯明書若クハ理由書ヲ受理シタルトキハ十五日以内ニ雙方申立ノ事實圖面等ヲ調査シ書類ヲ添ヘ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ

●鑛場讓渡ノ節証券下渡ノ件　明治七年三月（工部省）布達第八號

借區開坑許可之鑛場甲ヨリ乙ヘ讓渡之儀坑法第二十四條之通甲乙雙方ヨリ願書差出當省ニ於テ調査不都合無之聞屆候分ハ更ニ証券可下渡候條讓渡人所持之証券ハ願書一同可差出此旨布達候事

但讓受之年限ハ最初借區差許候年ヨリ殘年數ト相心得可申候事

●坑物ヲ引當トナシ外國人ヨリ金子借入レヲ禁ス　明治七年十一月布告第百二十四號

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付假令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

●坑物發見ノトキ見本差出方　明治七年十二月（工部省）布達第三十號

試堀坑場ヨリ坑物發見スル時ハ坑法第二章第六款ニ照準直ニ見本可差出筈ノ處未タ不指出者モ有之不都合ニ付左ノ條目ニ照準シ早々爲差出猶試堀ヲ不經シテ借區開坑候者モ同樣可致此旨布達候事

但以來モ本文同樣可相心得候事

一有鑛質無鑛質ニ不係鑛石類ハ方三寸ヨリ大ナラサル者三塊砂金ハ成丈大粒ヲ撰ミ目方壹匁ヨリ三匁迄砂鐵ノ類ハ字毎ニ目方十匁石油山鹽等ハ字一箇所ニ付二合ヲ限毎種上中下三品差出ス可シ

結晶物ハ大小ニ不關產出ノマヽ差出スヘキ事

但結晶物ノ價格アルモノ並ニ砂金ハ相當ノ代價下渡候事

一鑛物類ハ毎種必產出ノ地名並堀採人ノ名前書ヲ添エヘシ

●坑業稼ノ者身代限處分中稼業禁止　明治九年四月布告第四十九號

（參照）明治九年四月（工部省）第八號達、太政官第四十九號ヲ受ケ代ハリ處分ヲ受ケ候者處分中坑業稼方不相成旨御布告ニ付右處分ヲ受候者ハ當省ヨリ下渡置候試掘借區證券返納可致此旨布達候事、但身代限處分濟ノ上猶稼致度候者ハ坑法ニ照準更ニ願出事

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

●砂鐵砂金採取出願手續　明治十二年十月（工部省）布達第十四號

砂鐵並砂金稼行之者ハ日本坑法ニ基キ試掘借區開坑ヲ許可シ來候處自今都テ試掘借區開坑ノ名稱相廢候條該地所ノ名字等詳細ノ繪圖面相添採取ノ儀出願スヘシ且從來既ニ試掘借區開坑ノ許可ヲ受居候者ハ採取ニ願替假坑區券ハ返納スヘキ儀ト可心得此旨布達候事

●鑛山借區稅怠納者及無故休業ノ者坑業禁止並試掘期限經過ノモノ證券引揚返納方　明治十九年二月　農商務省達第三號　府縣

鑛山借區稅怠納者及滿一箇年以上無故休業ノ者坑業禁止ノ儀並ニ試掘期限經過ノモノ證券引揚ノ儀ハ已來伺出ニ不及其廳限リ處分シ證券引揚ケ返納ノ節其事由具申スヘシ

●鑛山借區稅怠納又ハ休業及試掘期限經過シ證券引揚ノ者ハ同村ニ於テ新ニ許可セス　明治十九年三月　農商務省令第四號

鑛山借區稅怠納又ハ一箇年以上休業及試掘期限經過ノタメ證券引揚處分ヲ受ケタル者ニハ同一村內ニ於テ新ニ試掘又ハ借區ヲ許可セス

●鑛山借區稅徵集後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅金ハ下戻サス　明治十九年四月　農商務省令第五號

鑛山借區稅徵收後廢坑又ハ減坪ニ屬スル既納稅金ハ下戻サヽルモノトス

●鑛山借區坪數ニ增減ヲ生シタルトキ徵稅方　明治二十二年十二月　農商務省令第十二號

鑛山借區更正ノ爲メ坪數ニ增減ヲ生シタルトキハ自今更正許可ノ月ヨリ其坪數ニ據テ稅金ヲ徵收ス

但減坪ニ屬スル既納稅金ハ明治十九年當省令第五號ニ據ル

●鑛山試掘證券ノ下渡ヲ止ム　明治二十二年一月　農商務省告示第二號

（●鑛山及借區試掘期限經過ノタメ證券引揚處分ヲ受ケタル者ハ同村內ニテ滿三年間新ニ之ヲ許可セス　明治二十二年九月　農商務省令第八號府縣

明治十九年三月農商務省令第四號中證券引揚處分ヲ受ケタル者ニハ同一村內ニ於テノ下ニ滿三年間ノ四字ヲ加フ）

鑛山試掘許可ノ際證劵下渡シ來リ候處自今之ヲ下付セス

●日本坑法第三款所屬ノ鑛物ヲ增シ右ニ係ル試掘借區劵ヲ返納セシム

明治二十二年一月
農商務省訓令第四號

北海道廳　府縣

自今左記ノ鑛物日本坑法第三款所屬トシテ取扱候條從前下付シタル試掘借區劵此際返納セシムヘシ

陶土　耐火粘土　石版石　瑪瑙　石綿　金剛砂　雲母　石膏　鹹泉

●農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收順序

明治二十三年二月
農商務省訓令第六號

北海道廳　府縣

當省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收順序左ノ通相定メ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

但豫算ニ關スル事項ニ限リ明治二十四年度ヨリ本順序ニ據ル

農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅徵收順序

第一條　農商務省所管免許料手數料鑛山借區稅ノ徵收ハ此順序ニ據リ北海道廳府縣廳ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第二條　收入豫算ハ明治二十二年三月閣令第十二號歲入歲出豫算概定順序及同年四月大藏省訓令第二十一號樣式ニ據リ調製シ前々年度二月二十八日迄ニ農商務省ヘ送付スヘシ

第三條　歲入概算月額金庫區分表ハ明治二十二年十二月大藏省訓令第七十五號ニ據リ調製シ每年度歲入概算書ト共ニ農商務省ヘ送付スヘシ

第四條　農商務省ハ豫算裁定ニ基キ各目ノ金額ヲ達スルモノトス

第五條　收納取扱方ハ明治二十二年十一月大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序第三條以下ノ各條ニ據ル但每月收入總報告書ハ其翌月十五日迄ニ農商務省ヘ送付スヘシ

第六條　過誤納金ヲ發見シ其拂戻シヲ要スルトキハ下戻計算書ヲ作リ之ヲ農商務省ヘ送付スヘシ

●試掘權喪失ノトキハ指令書ヲ返納セシム

明治二十三年六月
農商務省訓令第三十號

試掘人其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失（廢業讓受渡期限經過借區願換等）シタルトキハ遽ニ下附シタル指令書ヲ返納セシムヘシ

●鑛業ニ關スル出願手續

明治二十三年七月
農商務省令第七號

今般法律第五十五號發布ニツキ鑛業ニ關スル出願手續等左ノ通相定ム

第一條　試掘若クハ借區ノ許可ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ勅令第百五十一號第一條ノ手數料ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ必要ノ圖面ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ直ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

但シ試掘及借區願書ハ第一號及第二號書式ニ坑區圖ハ第一號雛形ニ依ルヘシ

第二條　坑法第九款第二項ニ依リ願書ノミヲ差出ストキハ府縣國郡市町村大字小字及概略ノ坪數ヲ記シタル見取圖ヲ添フ可シ

第三條　鑛業ニ關スル願書及附屬圖ニハ地主隣借區人ノ連署及市町村長郡長及地方長官ノ奥書ヲ要セス

第四條　試掘借區通洞、借區外坑道及借區外製煉所建設等ニ係ル願書ヲ農商務大臣ニ差出シタルトキハ同時ニ其ノ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ試堀地又ハ借區地ノ市町村長ヲ經由シ地方長官ニ屆出ツヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ屆書ヲ受理シタルトキハ圖面ノ正否公益上ノ利害竝ニ其ノ出願地ニ於テ他ニ鑛業ヲ營ム者ノ有無ヲ調査シ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ其御料地若クハ官有地ニ係ルモノハ地方長官主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

第五條　新ニ發見シタル鑛物ニ就テ借區ヲ出願スル者ハ其ノ鑛物ノ標品ヲ農商務省鑛山局長宛ニテ差出スヘシ

舊坑ニ就テ借區ヲ出願スル者其ノ舊坑ヨリ出願鑛物ヲ採製シタルノ事蹟ヲ證明シ得ルトキニ限リ標品ヲ要セス

前項ノ標品及證明書ハ借區願書ト同時ニ差出スヘシ

但シ標品ヲ借區願書ト同時ニ差出スコトヲ得サルトキハ日限ヲ定メ借區願書ヲ差出ストキ其ノ旨ヲ屆出ヘシ

第六條　試堀又ハ借區出願ノ爲メ必要ナル土地ノ測量ニ就キ地方長官ハ其ノ認可ヲ出願シタル場合ニ於テハ地方長官ハ五日以内ニ認可狀ヲ下付スヘシ

若シ認可狀ヲ下付スヘカラサルモノト認メタルトキハ出願ノ日ヨリ十日以内ニ其理由ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

（第一號書式）（用紙美濃紙二ツ折正副二通）

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

試堀願

名稱　何（地名）　試堀地

何府縣何國何郡市何町村大字何

小字　何全地

但　官地民地　何々

小字　何ノ内

但　官地民地　何々

右之箇所ニ於テ何鑛含有致シ候見込ニ付試堀許可相成度此段相願候也

年　月　日

何府縣何國何郡市何町村何番地
華士族平民　何　某

但シ組合人アラハ外何名

願人　何　某　印

但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

農商務大臣（爵）（姓名）殿

（第二號書式）（用紙美濃紙二ツ折正副二通）

此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

借區願

名稱　何（地名）　鑛山

何府縣何國何郡市何町村大字何

小字　何全地

但　官地民地　何々

小字　何ノ内

但　官地民地　何々

右之箇所ニ於テ何鑛存在致シ候ニ付借區許可相成度此段相願候也

年　月　日

何府縣何國何郡市何町村何番地
華士族平民　何　某

但シ組合人アラハ外何名

願人　何　某　印

但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

農商務大臣（爵）（姓名）殿

（第二條ノ場合ニ於テハ左ノ但書ヲ加フヘシ）

但坑區圖ハ何年何月何日迄ニ差出シ可申候間見取圖添附仕候也

（備考）

（第二條ニ依リ別ニ圖面ヲ差出ストキハ圖面ノ右側ニ左ノ通リ認メ置ク可シ）

（何）年（何）月（何）日發送仕置候借區出願ニ對スル借區圖差出シ申候也

年　月　日

何府縣何國何郡何市何町何村何番地
華士族平民
何　某
但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

第一號雛形

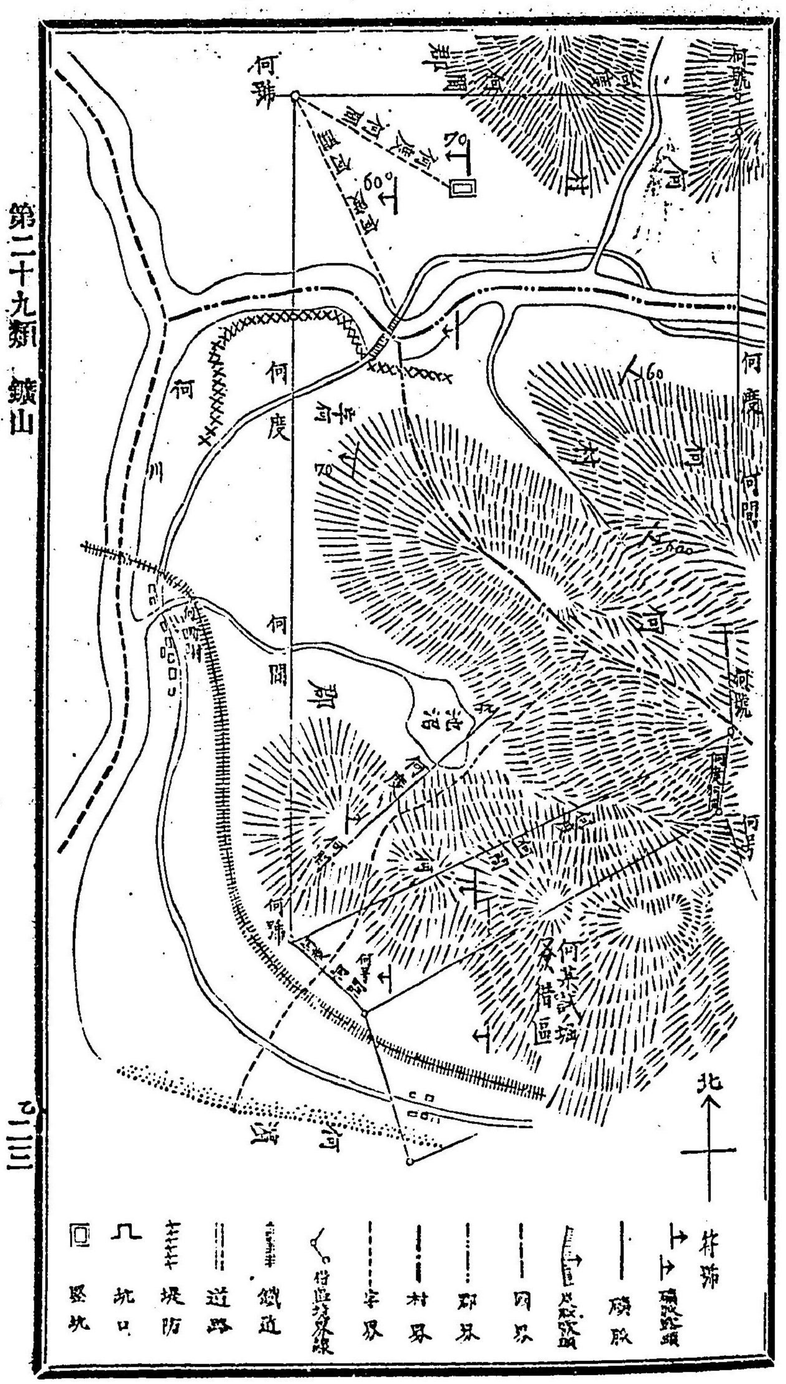
何（地名）鑛山出願坑區實測圖

尺度三千分一（一間五厘）又ハ六千分一（一間二厘）又ハ一千二百分一（一間一厘）

住所族籍
何府縣何國何郡何市何町何村大字何　小字何全地官地民地（地種地目）何坪
小字何ノ内官地民地（地種地目）何坪
何　某㊞
但シ組合人アラハ連名連印スヘシ

測量者
何　某㊞

合計何坪



●鑛業ニ關スル出願等手續中刪除

（明治二十三年十月農商務省令第四號第七號）

（本年當省令第四號第一號雜形中附圖第一項ヲ刪除ス）

圖中山ハ綠色水ハ青色坑區ノ境界線ハ朱ヲ以テ顯スヘシ

二箇以上ノ坑區アルトキハ甲乙等ノ號ヲ付シ一區毎ニ村字坪數ヲ書別ケ別々ニ記載スヘシ

一　坑區ハ成ルヘク隅角ノ少キ樣區畫スヘシ

二　坪數ハ四捨五入シテ坪ニ止ムヘシ

三　基點ハ家屋橋梁大石及大木等ノ如キ容易ニ動カス可カラサルモノタルヘシ若シ近傍基點ト爲スヘキモノナキトキハ大ナル標木ヲ設置シ之レヲ基點トナスヘシ

四　百間以內ノ地ニ於テ自他ノ坑區アラハ其距離ヲ測定シテ圖上ニ揭クヘシ

五　礦脈ノ方向判然タルモノハ坑區內及近傍礦脈露頭ノ走向傾斜ヲ揭示スヘシ

六　增減借區ノトキハ原圖ヲ製シ若干ノ增區前同樣圖ノ式ニ依ルヘシ減區ノトキハ其區域ハ無彩色ニ製スヘシ

七

●北海道廳管內ニ於ケル試掘借區其他鑛業ニ關スル諸願書書式準據方

（明治二十三年十月農商務省告示第八號）

北海道廳管內ニ於ケル試掘借區其他鑛業ニ關スル諸願書ハ本年七月當省令第七號ニ據リ自今直チニ當省ヘ差出スヘシ

●坑業ニ關スル手數料徵收

（明治二十三年七月勅令第百五十一號）

朕坑業ニ關スル手數料徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　坑業ニ關シ次ニ揭ケタル出願ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　試掘ヲ山願スルトキ　一願書毎ニ金三圓

一　借區ヲ山願スルトキ　一願書毎ニ金拾五圓

一　試掘ノ讓與、延期、加除名ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金壹圓

一　借區ノ繼年期、讓與、加除名、訂正、合併若クハ分割ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金五圓

一　借區外製煉所建設又ハ借區外ノ坑道、通洞ヲ出願スルトキ　一願書毎ニ金貳圓

第二條　手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條　本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行ス

●試掘願書ニ添付スル圖面記載方　明治二十三年八月　農商務省告示第六號

試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣國郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

●鑛業條例制定日本坑法廢止　明治二十三年九月　法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛業條例

第一章　總則

第一條　鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛（砂金ヲ除ク）銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛（砂錫ヲ除ク）安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛（砂鐵ヲ除ク）硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條　帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖瘂ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條　農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若クハ役員トナルコトヲ得ス

第五條　此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條　共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章　試掘及採掘

第八條　試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限內ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長

第三條　本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行ス

●試掘願書ニ添付スル圖面記載方

明治二十三年八月
農商務省告示第六號

試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣國郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

●鑛業條例制定日本坑法廢止

明治二十三年九月
法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鑛業條例

第一章　總則

第一條　鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條　鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛（砂金ヲ除ク）銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛（砂錫ヲ除ク）安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛（砂鐵ヲ除ク）硫化鐵鑛、滿布鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條　帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋顛白痴又ハ瘖瘂ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條　農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若クハ役員トナルコトヲ得ス

第五條　此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫メ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條　共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業屆等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半數ノ連署ヲ要ス

第二章　試掘及採掘

第八條　試掘ヲ爲サントスル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限内ニ於テ其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長

ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條　試堀ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條　前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其ノ販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國税滯納處分法ニ依リ處分ス

第十二條　採堀ノ特許ヲ得ントスル者ハ採堀願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

採堀願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サヽルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條　採堀ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採堀セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條　鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採堀出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採堀出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條　鑛山監督署ニ於テハ試堀及採堀出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス

第十六條　試堀又ハ採堀ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試堀ト採堀トニ係ルトキハ先ツ採堀ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條　農商務大臣採堀ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條　試堀若クハ採堀ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試堀ニ就テハ所轄鑛山監督署長採堀ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條　試堀若クハ採堀ノ事業公益ニ害アルトキハ試堀ニ就テハ所轄鑛山監督署長採堀ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若クハ特許ヲ取消スコトヲ得鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條　特許ヲ得タル鑛物ノ採堀權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得採堀權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採堀權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其ノ登錄ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條　他人試堀ノ年限中ハ其ノ試堀地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採堀ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　他人ノ認可ヲ得タル試堀地内ニ於テ其ノ試堀人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試堀又ハ採堀ヲ出願セント欲スル者ハ試堀人ノ承諾ヲ經ヘシ

試堀人自ラ試堀又ハ採堀ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試堀ニ妨害アルトキノ外ハ試堀人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試堀ノ認可又ハ採堀ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試堀若ハ採堀ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試堀又ハ採堀ヲ出願セント欲スルカ若クハ其ノ試堀又ハ採堀ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試堀又ハ採堀若クハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條　鐵道、馬車鐵道、公道、河湖、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若クハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試堀又ハ採堀ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條　鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採堀特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サヽル

モノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條　鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サヽルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條　鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條　前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條　鑛業人ハ坑内實測圖二葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條　鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ取消ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行

政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條　第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條　前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條　鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條　第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以內ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラス特許ヲ與フヘシ

第三十九條　鑛業人ハ每年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

第四十條　鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製產物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章　鑛區

第四十一條　鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條　出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ訂正シテ差出サヽルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條　特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以內ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以

内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條　鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若クハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條　鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條　鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章　土地使用

第四十七條　試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條　左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一　坑口ヲ開穿スル爲

一　鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一　坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一　鑛業上必要ノ製錬場及建物建設スル爲

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一　貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ

一　土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サヽルトキ

第五十條　土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地

料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以内ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條　土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應シ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條　土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滯シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滯借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサヽルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條　鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其土地全部ノ買取若シハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條　鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條　土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若クハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條　所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條　鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章　鑛業警察

第五十八條　鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

一　坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一　鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一　地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條　鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條　前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條　第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條　農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採堀ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條　農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章　鑛夫

第六十四條　鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ從事スル男女ノ職工ヲ謂フ」

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條　左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

一　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若クハ命令ヲ遵守セサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條　左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

一　約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ

第六十八條　鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若クハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條　鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條　鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齡、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條　農商務大臣ハ左ニ記載スル制限內ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

一　一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一　女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一　十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條　鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一　鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一　前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ癈疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章　鑛業稅及鑛區稅

第七十三條　鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業製產物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪每ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス

鐵鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業稅ヲ課セス

第七十四條　前條鑛業製產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條　鑛業稅ハ前年分ヲ每年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ

鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ還付セス

第七十六條　鑛業人納稅期限內ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章　罰則

第七十七條　第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條　認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條　第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條　第三十九條ニ依リ屆出ツヘキ事項ヲ詐テ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金額

ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條　第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若クハ記載ヲ怠リ若クハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條　第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條　第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章　附則

第八十九條　此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試堀人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試堀又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條　此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條　此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條　此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

●試堀地坪數制限

明治二十三年十月　農商務省令第十三號

試堀地ノ坪數ハ日本坑法第九款第五項ノ制限ニ據ルヘシ

◎第三十類

○森林

●官有森林原野及産物特別處分規則

明治二十三年四月
勅令第六十九號

朕官有森林原野及産物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有森林原野及産物特別處分規則

第一條　農商務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有森林原野及其産物ヲ競爭ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣却スルコトヲ得

一　官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ賣渡シ及其建築材料ヲ賣渡ストキ

二　開墾若クハ牧畜ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ買渡ストキ

三　鑛業ノ爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ建築材料又ハ薪炭材ヲ賣渡ストキ

四　植樹ノ爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

五　非常ノ災害ニ罹リタル地方人民ノ爲メ建築材料ヲ賣渡ストキ

六　從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若クハ土石ヲ賣渡スト

●官有森林原野及產物特別處分規則中追加

明治二十三年十二月勅令第二百八號官有森林原野及產物特別處分規則ニ之ヲ公布セシム

明治二十二年勅令第二百八號官有森林原野及產物特別處分規則ニ左ノ通追加ス

第一條　海沼湖濠ノ埋立ニ關スル特別處分ノ件ヲ裁可シ中產物ノ賣渡ストキハ第三條農商務大臣ノ相當ノ上地代ヲ定メ社寺ニ委托シ其林地ノ使用ヲ許可シ又ハ其林地ノ產物ヲ下附スル

七　部分木ヲ仕付人ニ賣拂フトキ

八　社寺建築營繕ノ爲メ該社寺上地ノ木材若クハ土石ヲ賣渡ストキ

九　地押調査ニ由リ發見シタル開墾地ヲ其開墾人ニ賣渡ストキ

十　建築其他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其發見人ニ賣渡ストキ

十一　季節アル生產物ヲ賣拂フトキ

十二　開墾牧畜若クハ植樹ノ爲メ貸渡シタル森林原野ノ區域內ニアル產物ヲ其借受人ニ賣拂フトキ

十三　林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若クハ產物ヲ賣渡ストキ

十四　部分方法ニ由リ林產物製造ノ爲メ其原料ヲ請負人ニ賣渡ストキ

十五　見積借地料一箇年金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ヲ貸渡ストキ

十六　十町歩以下ニシテ見積代價金貳百圓ニ超ヘサル森林原野ノ民有地又ハ道路河川ニ介在セルモノヲ接續地ノ所有者ヘ賣拂フトキ

十七　見積代價金貳百圓ニ超ヘサル木竹ヲ賣拂フトキ

第二條　農商務大臣ハ競爭入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以內ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フコトヲ得

●官有森林原野及產物特別處分規則ニ據リ隨意契約ニテ原野ヲ賣渡ストキ準據條項

明治二十三年七月農商務省訓令第三十四號

府縣（神奈川靜岡愛知山梨沖繩縣ヲ除ク）

明治二十三年勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第一條第二項ニ據リ隨意契約ヲ以テ原野ヲ賣渡ストキハ左ノ條項ニ準據ス可シ

第一條　原野賣渡願書ハ地方長官宛ニテ地元町村長ヲ經由シ所轄官廳ニ差出サシム可シ其願書ニハ賣渡出願ニ係ル原野所在ノ國郡町村字名地目段別素地相當代價ヲ記載シ且事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添付セシムルヲ要ス

第二條　前條ニ依リ願書ヲ差出シタル者アルトキハ地方長官ハ其願書ニ意見ヲ附シ事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添ヘ本大臣ノ指揮ヲ請ク可シ其出願ニ係ル原野ノ段別五町歩已下ナルトキハ之ヲ專決スルコトヲ得

第三條　原野賣渡願書ハ總テ書留郵便ヲ以テ之ヲ差出サシメ若シ二人已上同地ニ付テ出願シタルトキハ地方長官ハ願書發送時日ノ前後ヲ取調ヘ意見ヲ附シ本大臣ノ

指揮ヲ請クヘシ

第四條　原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ納付シタル後ニアラサレハ其所有權ヲ拂受人ニ移轉セシメサルモノトス其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ其保證人ヲシテ所轄官廳ニ納付セシムヘシ

但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ納付セシメタル上之ヲ拂受人ニ移轉セシムルコトヲ得

第五條　賣渡ノ豫約ヲナス可キ原野ノ段別ハ四百町歩已内トス

但土地ノ區域又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ

第六條　事業ノ成功期限ハ十五年已内ニ於テ之ヲ定メシメ若シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ依リ中途拂受人ニ於テ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ノ變更ヲ要スルコトアルトキハ地方長官ハ其拂受人ヲシテ更ニ事業方法書及收支豫算書ヲ添ヘ願書ヲ差出サシメ本大臣ノ指揮ヲ請クヘシ

第七條　賣渡ノ豫約ヲナシタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セサルモノトス

第八條　左ニ記載スル條項ハ拂受人ヲシテ之ヲ遵守セシムヘシ

一　賣渡豫約ニ係ル土地ハ所轄官廳ノ許可ヲ得スシテ之ヲ他人ニ貸渡スヲ得サルコト

二　賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害ニ就テハ拂受人其責ニ任スヘキコト

三　拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六箇月已内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ著手スヘキコト

四　拂受人ハ前年ニ於ケル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ所轄官廳ニ報告スヘキコト

五　拂受人ニ於テ事業ニ著手シ及ヒ事業ノ成功シタルトキハ十日已内ニ所轄官廳ニ報告スヘキコト

六　賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定シタル物件ハ拂受又ハ特別ノ契約ヲナスニアラサレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用スヘカラサルコト

七　地方長官ニ於テ官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ檢査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト

八　拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日已内ニ標杭ヲ境界ニ建設スヘキコト

九　事業ハ必ス豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲スヘキコト

第九條　拂受人第八條ニ記載スル事項ヲ遵守セス又ハ成功期限ニ至リ事業成功セサルトキハ豫定通成功セル部分ニシテ相當ノ代價ヲ納付シタルモノハ之ヲ除キ其他

ハ所轄官廳ニ返還セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セス又返還地ニ在ル植物建物等ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ取拂ハシムヘシ

第十條　從前開墾牧畜ノ爲メ原野賣渡豫約ヲナシタルモノニシテ規程ノ契約ナキ事項ハ更ニ此規定ニ據リ取扱フ可シ

●官有森林山野ノ收入ニ關スル件當省指令ニ係ルモノ

達方

明治十八年二月
農商務省達第五號

府縣沖繩縣ヲ除ク

官有森林ノ野山收入ニ關スル件ニシテ當省指令ニ係ルモノハ自今到達日限ヲ除キ二十日以內ニ達方取計ヒ直ニ其年月日ヲ可屆出此場合ニ於テハ地所貸渡土石堀採ノ外明治十五年第一號及第十號達ノ表面ヲ添付スルニ及ハス若シ期限內執行シ難キトキハ速ニ其事由ヲ具狀致スヘシ此旨相達候事

但調理ノ都合有之ニ付十七年七月一日已後此達到達已前當省ノ指令ニ係ルモノニシテ既ニ達方取計ヒシモノハ其月日(已ニ屆出ノ分ヲ除キ)速カニ可屆出事

●官林保護費受授及精算手續書改正

明治十八年七月
農商務省達第二十八號

府縣山林事務所設置アル府縣及沖繩縣ヲ除ク

明治十四年十二月甲第百七十七號達官林保護費受授及精算手續書同十五年八月坤會第五百壹號達山林費受授及精算手續書別紙ノ通改正候條明治十九年度ヨリ可致施行此旨相達候事

(別紙)

官林保護費受授及精算手續

第一條　府縣委托官林保護費ハ毎年當省ヨリ相達スル金額ニ據リ府縣ニ於テ第壹號第貳號書式ニ準シ豫算內譯書及月額金請求書ヲ調製シ直チニ當省ヘ差出スヘシ當省ハ此請求書ノ金員ヲ毎前月中其府縣ヘ送附スヘシ

第二條　各項ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得ス一項中各目ノ金額ヲ流用セントスルトキハ第三號書式ニ準シ仕譯書調製其都度當省ヘ伺出ツヘシ

第三條　府縣ハ第四號書式ニ準シ毎月請拂精算帳ヲ調製シ正當請取人ノ請取證書ト共ニ翌月五日限リ其地ヲ發シ當省ヘ差出スヘシ

但該年度經過ノ後二箇月ヲ以テ最末ノ精算帳ト爲スヘシ

●官林保護費受授及精算手續付屬經費科目表中目節設置　明治十八年八月

農商務省達第三十六號（府縣ヘ山林事務所設置アル府縣及沖繩縣ヲ除ク）

本年（七月）第二十八號達官林保護費受授及精算手續附屬經費科目表中一目節ノ次位ヘ「筆墨紙墨文具料」ノ一目及「通信運搬費」「電信料」ノ次位ヘ「使賃」ノ一節ヲ設置候條此旨相達候事

第四條　當省ハ第三條ノ精算帳ヲ調査ノ上其都度第五號書式ノ仕拂濟證書ヲ交付スヘシ

明治何年度
官林保護費豫算內譯書
但紙數何枚（表紙ヲ除ク）
何府縣

△印ハ朱書

一　何府縣

△標準額金（十八年第拾壱號公達歲入出豫算條規第七條ニ據リ標準トセシ金額ヲ掲記スヘシ）

△前年度豫算額金

一金　（項ノ金員ハ總テ圓位ニ止ムヘシ）　俸給

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ爲メ人員ノ增（減）セシニ由ル（增減ヲ生セシ事由ヲ記載スヘシ以下各項倣之）

前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ云々（仝上）

內譯

△標準額金

△前年度豫算額金

金　備員俸給

但標準額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ何々ノ爲メ月給何圓取何人日給何錢取何人ヲ增（減）セシニ由ル（增減ヲ生セシ事由ヲ詳記スヘシ以下各目倣之）

前年度豫算額ニ比シ金何圓ヲ增（減）セシハ云々（仝上）

內

金　月給何圓何人

金　日給何錢何人

△標準額金

△前年度豫算金額

一金　諸給

但

內譯

△標準額金

△前年度豫算額金
金
但
内
△標準額金
金
但標準額ニ比シ金何圓ヲ增(減)セシハ云々(標準額ニ對シ增減ヲ生セシ事由詳記スヘシ以下各節倣之)

備人料

官林監守人
年給何圓何人
仝　何圓何人

廳費

△標準額金
△前年度豫算額金
一金
但
内譯
△標準額金
△前年度豫算額金

金
但
内
△標準額金
金
但
内
金
金
金
△標準額金
△前年度豫算額金
金
但
△標準額金
△前年度豫算額金
合金

但明治何年何月何日第何號御達高

筆紙墨文具

常用紙

美濃紙何帖
巻紙何本
何々何程

消耗品

右ハ明治何年度官林保護費豫算内譯書面ノ通有之候也

年號年月日

農商務卿宛

府縣長官名印

第一號書式附屬

經費科目表

款	項	目	節	細節
山林局				
	俸給			
		判任俸給		
			一等屬	「給額ヲ以テ内譯ヲ分ツ」
			二等屬	
			九等出仕	
			三等屬	
			四等屬	
			五等屬	
			六等屬	
			七等屬	
			八等屬	
			九等屬	
			十等屬	
			御用掛	「給額ヲ以テ内譯ヲ分ツ」
				（北海道三縣ニ限ル）
		等外俸給		
			一等出仕	
			二等出仕	
			三等出仕	
			四等出仕	
			御用掛	「給額ヲ以テ内譯ヲ分ツ」
			一時賜金	退官賜金、死亡者賜金
		傭員俸給	給額ヲ以テ内譯ヲ分ツ	月給日給雇、寫字生、其他官吏ノ事務ニ從事スルモノヽ給料

		諸給				
			諸手當			
				官林監護人手當	紙墨紙料共	
				官林監守人手當	「墨紙料」	
			傭人料			
				官林監守人		
				給仕		
				小使	臨時小使共	
				番人	「官林番」「苗圃番」等ノ類	
				職工		
				人足	人御用狀持、造伐木取片付、損木調査、掃除、人足其他日雇	
			亟與			
				勉勵賜金	「官吏」「雇員」「監守人」「小使」「給仕」等勉勵賞ニヨリ賜ハル分	
				賞與		
				祭粢料		

				死傷手當		
		醫費				
			器具器械費			
				椅子類	「各種ノ腰掛等修繕共」	
				卓子類	「各種ノ机腰掛等修繕共」	
				箱類	「柳行箱、行李、カバン、長持、月賦、紙ノ類、文庫、鐵函、碁盤等付屬品共修繕」	
					「使用ノ目的ヲ問ハス箱類ハ總テ本節ニ編入ス」	
				桶類	「水桶、飯桶、圓、釣瓶、手桶、等付屬品共修繕」「桶、荷桶、釣瓶、縄ノ類」	
				室內備品	「上蓋掛、机掛、時計、煙草盆、火鉢、煙草掛等修繕共」「蚊帳、手拭掛、傘立、帽子掛、傘立等修繕」	
				印章版木類	「各種ノ印章、活字、版木、罫、焼印、打込印、各種ノ印章版木修繕共」	
				農工具	「鋸、鉈、斧、鍬、鋤、鋤、等修繕共」「草摘、鎌ノ類」	
				度量衡	「修繕共」「巻尺、竹尺、桝、秤ノ類」	
				臥具	「蚊帳一切ノ付屬品及ヒ修繕共」「毛布、敷蒲團、蒲團ノ類」	
				諸車	「馬車、人力車、荷車等修繕共」	
				艀艇	「付屬品及修繕共」「貯木所、綱類等ニテ使用ノ分」	

			厨具	「水瓶、釣瓶、釜、土瓶、茶碗、茶盆、炭取、火箸、拍杓等修繕共、下能茶釜入ノ類」
			雑具	「用箒、裁断、打鉦、刷板、刷毛、雨具、各種ノ鈕、點火器、行燈用及提灯、ランプ、油差、笠、合羽ノ類、紙裁、定木、紙打槌、塗板、皿共修繕共」
			防火器械	「付属品及修繕共」ポンプ、添口、梯子ノ類
			窯業器械	「仝上」
			測量器械	付属品及修繕共
			鳥銃弾丸	除害銃付属品及修繕共
			捕獲器具	付属品及修繕共
		圖書及印刷費		
			書籍類	「書類、絵図、帳物等修繕共」
			報告書新聞紙類	「達書、規則書、官報、雑誌、新聞紙等」
			製本費	「製本職工賃ヲ含有セス」
			報告書印刷	「年報等」
			書籍印刷	
			切符印刷	

			図書字彙印刷	「図書、証札等ノ印刷、并ニ罫紙、帳立料共」
		雑紙墨文具		
			常用紙	「特美濃紙、美濃紙、半紙、鳥ノ子紙、奉書、半切、厚紙等」各種罫紙、計算表用紙ヲ除キ一切ノ洋紙、製図用紙、帖簿用紙ノ類
			洋紙	
			封袋	「紙製、布製、共一切ノ文書封袋」
			諸帳簿	手帳及差札帳ノ類
			計算表用紙	洋紙ニ限ル
			雑類	「毛筆、鉄筆、鉛筆、石筆等、硯筆ペン軸、ペン先ノ類
			墨類	「常用墨、朱墨、墨汁、絵具等」胡粉、粉朱ノ類
			印肉	
			硯石硯箱類	「硯石、硯箱、墨壺、墨汁入等」
			図引道具	「コンパス、烏口、定木等」図引板、分度器、分規ノ類
			小道具類	「鍵、石盤、容器、計盤、消ホ入、ゴム容、筆、肉池、絵具皿、状文差、低挟小刀、錐、焼鏡、ノ類」
		消耗品		
			薪炭類	「各種ノ薪、木、石炭、木炭等」

				油類	「石油、種油、器械用油、塗油、洋ペンキ等」
				飲用品	「茶等、飲水等
				薬品	「樟腦、石炭酸、硫酸等、防臭薬ノ類
				雑用品	「蝋燭、生蝋、封蝋、膠、付木、火縄、燈心等、ランプ、マッチノ類
			報奬金		
				翻譯料	
				寫字料	「一部ノ寫字生及給仕等ノ餘暇ニ寫字セシメタル寫字料共、校閲當リテハ以テ支給スルモノニ限ル」寫圖料共
				諸謝金	「代言人、訴訟人、鑑定人、醫師、官物拾得者等ニ給スル分」
			被服費		
				官林監守人被服	
				給仕靴料	
				小使被服	
				常用人足被服	
			巡査備入費		巡査屋入ニ係ル一切ノ諸費
			通信運搬費		

				郵便税	「郵便為替手数料共」
				電信料	手数料共
				運送費	「物品運送ノ人足賃共、日雇人足ハ假令物品ヲ運搬セシムルモ本節ニ含有セス」
				荷造費	
				保険料	
			標本費		
				植物標本	材料其他見本ノ類
			家屋其他借料		
				借家料	
				借地料	
				蔵敷料	運搬中蔵敷料共
				物品借用料	「器具、器械、書籍等」
			雑費		
				広告料	
				公費手数料	「官有物（没收物品共）ヲ公賣スルトキニ限ル」

				賄賂	「官吏及雇人共」
				馬車飾賃	
				人力車飾賃	
				雜乘物飾賃	馬、駕、船等
				當道路疏水等手	道路、橋梁共
				街燈費	
				雑品費	「綱、糸、金物、竹、小縄、荷造、等、壁取、雑巾、門札、室札、風呂敷、」綾糸、砥、鋏、各種眼鏡、石、草履、紙屑籠、洲盆、旗、掛枠、塗板、各種小札、掛枠、板、ノ紅
				料木材取扱手數	樺、炭、飾行、
			訴訟入費		「訴訟入費ハ所ノ費却規則ニ支拂ル所ノ費却規則ニ民事訴訟用印紙ニ差異アルモノニ支拂ハルル」ニ上告手数
				旅費	「代理人、証人、引合人」
				報勞金	「通辨屋料、評價人、鑑定人、屋賃、翻譯料、謄寫料」
				通信費	「郵便税、電信料、使賃」
				訴訟用印紙	
				上告預金	

				辨償金	相手方ニ對シテ仕拂フ訴訟入費
		山林蒔殖費			
			雇人料		
				人足	木竹ハ根ニ節總ニテ手入、苗圃開墾、草取、補付、植付、官林火防、人足ノ編入ス竹林ノ手入及種苗培養ノ爲メ使役スル人足
			農具費		鍬、鎌、鋏、鋸、荷桶、柄杓、等」
			種苗購買費		
				苗木	
				種物	
			馬匹買上代		（北海道三縣ニ限ル）
			雑費		
				運送費	竹木手入用ノ賃、及苗木、種物、等ノ運搬費
				荷造費	
				馬飼料	
				雑品費	「糸、縄、莚、木、竹、等
				借地料	苗圃地借上料等